

UFOと宇宙哲学の研究誌

# GAPニュースレター

No. 67



〈巻頭言〉 ホンモノとニセモノ…1

**UFO問題の真相**(2) G. アダムスキー…2

永遠の生命を得るには 松尾和也…8

私はこうしてGAPにたどりついた 衣笠陽子…11

**円盤の推進力** 清家新一…14

**動物たちは知っていた!** ゴードン・ギヤスキル…19

亀田一弘先生の思い出…25

**科学と人間愛と信念** 久保田八郎…26

各地支部総会行事報告と予告…34

**会員の声**…36

さあ行こう、アメリカと中米へ!…38

〈予告〉本年度・日本GAP総会…39

日本GAP各地月例研究会案内…40

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。  
全記事・写真共禁無断転載。



GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて「コスミック・パワー」の子であり、そのパワーの諸法則や宇宙に遍満している真実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた「生命の科学」の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な発展をとげた人類が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は政治・宗教と関係のない非営利刊物物です。

■表紙写真は1952年11月20日、デザートセンターからパーカー寄り約17kmの地点で、劇的なコンタクトの直前に6インチ反射望遠鏡を取り出したアダムスキー(右側)と同行者の一人、ルーシー・マクギニス(左側)

六年前、世田谷の成城にある横尾先生の仕事部屋へたしか二度目に遊びに行ったときだった。アダムスキーやUFO問題について二時間ほど話し合ったあと、お土産としてサイン入りの画集を一冊頂いた。感謝しながら部屋を辞して小田急線「成城学園前」駅から電車に乗り込み、車内で画集を広げて見ていたところ、隣から声がかかった。

「すばらしい絵ですね。だれの作品ですか」

横尾忠則氏から今もらったばかりだと答えたら、その人は感歎の声を放った。「タダノリさんはいましたもんですよ。今や世界的ですからね」

見る人品卑しからざる白髪の初老の男が眼を輝かして覗き込んでいる。すぐに純粹な人であることがフーリングで読みとれた。温かい人柄を感じさせるのだ。しかし異様なのは服装である。青色の薄汚れたナッパ服は芸術家のような風貌に似つかわしくない。しかも傍には工具箱らしきものがあり、安物のウイスキーの小瓶を手にして、ときどきラッパ飲みをやっている。

話題が絵画からたまたま音楽に移って、編者は世にも教奇な運命の物語を耳にした。

この人は爵位を持つ有名な華族の令息であった。豊かな環境の中で何不自由なく育てられたが、生来音楽を好み、ピアノを専攻しからは世界的なピアニストを夢見たけれども、志を果たせぬまま、世界一優秀なピアノを作ることを思い立ち、ピアノ製造会社を設立して社長とし

て活動した。だが持ち前の芸術家肌がわざわいし、損得を度外視して上等な材料を使用したために採算がとれず、不渡手形を出して、ついに会社は倒産した。そして現在はピアノの調律師としてわずかな収入を得ながら糊口をしのいでいる。

それで今日も、もと自分の会社で作ったピアノを使用している家へ仕事に出かけた帰りだという。

「今、私の家は雨がひどく漏るようなあばら家で、そこに一人で住んでいます。家族はいません。しかし私が作った最上のグランドピアノが一台だけ保存してあり、仕事から帰って夜はこのピアノでべ

### ＜巻頭言＞

## ホンモノとニセモノ



ートーペンやショパンなどを弾くのが最大の楽しみなのです。他人は私を人生の敗残者だと嗤うかもしれませんが、でも平気です。私は優秀なピアノを作るために人生を賭けて精一杯の努力をしました。悔いることはありません」

ピアノが家の中へ入らぬために屋外でシートをかけて野ざらしにしてあるのが残念だと思え加えた。察するに極貧の生活をしているらしいが、その眼は一種の勝利感で輝いていた。

これを男の中の男と単純に賛美するわけにはゆかないが、少なくとも堂々たる人生をすごしていることは確かである。

その堂々たる態度が、ピアノに執念を燃焼させた本人のホンモノたることを証しているのである。ニセモノにはこの「堂々さ」がない。そこで故・亀田一弘先生の名著「透視術入門」の中の次の一節を思い出す。

「堂々と生き、堂々と失敗し、堂々と恋愛し、堂々と失恋し、堂々と儲け、堂々と美食し、堂々とセックスをし、堂々と病み、堂々と傷つき、堂々とそれを癒やし、堂々と逃げかくれし、堂々と浪費し、堂々とケチる。堂々と欲ばり、堂々と譲り、堂々と占拠し、堂々と老い、堂々と死んで行く。」

この前向きな勢い溢れた生き方を身につけたものが、精神統一をして、それを目標に向かって集中する処に透視をすることは必ず可能となる（同書二四九頁）要するに、何をやるにしてもホンモノになれることだろう。

アダムスキーは徹頭徹尾、自己の体験の真实性を主張して堂々たる態度を持していた。ときたま側近の人たちが彼の体験に対してちょっとでも疑惑を起こしたり愚痴をこぼしたりすると、テーブルを叩いて大声で叱咤したと、一九七五年にビスタでアリス・ウェルズ夫人が編者に話してくれたが、これはアダムスキーがホンモノであった証である。

一方、彼を非難する人にはニセモノが多い。

「あいつのために世界のUFO問題がメチャメチャにされたんだ」と放言する者さえいるが、実は冷静な判断力や感情の抑制力を持たぬ、こうした一種の欠陥人

間の頭のほうがメチャメチャになっているのである。ところがこんなニセモノ人間も一端のUFO研究者として名が通るのだから世の中はいい加減なものだ。

堂々と試行錯誤を繰り返して、堂々とタヨタシ、堂々とア氏を信じ続けるか、堂々とやめてしまおうか、とにかく堂々たる態度を保持して、いずれにせよ人生の終末で何らかの成果を得ることが本人のホンモノたる所以である。

ただしア氏の哲学は原因と結果の法則を重視し、この「原因」なるものなかに人間の想念も大きな役割を果たしており、その付随現象として神秘的な体験を持つこともあるので、野暮な堂々ぶりに終始してはならない。むしろ常識をわきまえて、極力敏感になり、紳士淑女として立派な振舞いをし、人が集まる所では心温まるような雰囲気をも出し出すような魅力ある人間になることを心掛ける必要があるだろう。堂々たる非常識さを常に発揮する人間は非常識者としてのホンモノではあるが、これは我々には不向きである。

しかし日本GAPの会員諸兄姉はどこへ行っても賞賛の的になることは確かである。その理由は特定の宗教の信者に見られるようなエキセントリックな面がなく、常識豊かにして、ものの考え方がユニバーサルで包容的であり、他を非難せず、自己を誇らず、親切心に溢れているからだろう。こうした人間愛を吹き込むアダムスキー哲学はホンモノ中のホンモノであり、これを非難する者はニセモノの最たるものである。

「かりにあなたがたのうちの一人もしくは全部がこの場で死んだとして、間違いなく自分は天国に行けると確信できる人がいたら手を上げてみて下さい」と言って数分間待ってみましたが、手を上げた人はいませんでした。一方では天国を信じながら、他方では確信が持てないのです。こうしたことは、少なくとも我々の前方に何か確固たる状態が存在すること

を意味していません。なぜなら生命は永遠であるからです。

### 思考法を単純化させよう

誤解しないでいただきたいのですが、私は宗教を否定しているものではありません。しかし、もし私が宗教を基盤とした信念にもとづくことにしますと、私は確

信が持てなくなるでしょう。

これは間違っていないと思います。我々すべてが永遠に生きたいと願っているからです。

最近になって我々は、宗教が教示しようとしている内容を別な方法で証明するやり方を見い出しました。

我々は、少なからず、物質の本質というものは破壊することができないことを知っています。何かを燃やしますと、ガスが出て、炭素が残ります。物質を形成している本質は、人間がどのように破壊しようとしても破壊することはできません。物質の本質自体が永遠なる存在ですから破壊できないのです。

この場合、英知は創造主の英知なのですが、これは物質を一つの型や他の型に形成する要因となっています。我々は地球上に多くの形ある物が存在することを知っています。これは創造主の英知が、あらかじめ型を見て、その物質がある一つの形になるように指示するのです。英知もまた永遠なるものにちがいがありません。したがって、あなたがたが望みさえすれば、永遠なる生命の証明は直ちに与えられます。我々の肉体は物質で出来ているからです。

### 身近な現象をだれも考えない

次に私自身の経験をもとに、多少深い意味を帯びた問題についてお話ししましょう。この問題は取り上げる価値のあるものです。それによって神がいかに我々の身近に存在するかを知ることができる

からです。神は我々が呼吸するときに吐く息よりも更に身近に存在します。

我々は今晚食事をします。しかし食物が体内に入った後、その食物に何が起こるかをだれも知りません。我々はそんなことは忘れてしまっています。

英知が働いて食物が消化されてゆく過程や、食物の栄養素が適切な器官に吸収されて、肉体を強く健康な状態に保つよう体内に蓄積されることなど、だれも気にもしません。我々はこうした神秘的な働きといつも一緒に生活していながら、それに注意を払うことは決してないのです。

どのように科学が進歩しても、我々がいつ母親や父親になるのかという問題に答えられる人はこの地球上に存在しません。地球人はこんなことをだれも知らないのです（編注Ⅱ受胎の時期や出生の神秘について人間は無知であるの意）。

我々は、子供が大きくなるにつれて、必要な成長のプログラムをコントロールする英知が我々の肉体内に存在することを認める必要があるのです。

創造主は我々の肉体内で正しく活動し続けています。微小なタネのような形をした物が、どのようにして成長プログラムの中に組み込まれ、どのような過程を経て自分の娘や息子になってゆくのか、また、その間にどのような事が発生しているのか、などを知っている人はこの地球上に存在しません。我々はめったにそんな事を考えませんし、自分の非常に身近にあるごく単純な物事に気をくばることとはしないのです。



# UFO問題の真相

(2)

●ジョージ・アダムスキー

1965年、ニューヨークでの講演

- ★海軍は知っていた
- ★驚異の宇宙人墜死事件
- ★デザートセンターのコンタクト その他

この世の中で、あらゆる物質のうちで最も貴重で最も高価な物は何でしょうかと、私が尋ねたとしますと、おそらく皆さんは、宝石や貴金属のダイヤモンドかプラチナだと答えるでしょう。

しかしお金でも買えない、世界中の富をもってしても買えない価値のある物、重要な物で、しかもタダで与えられている物は「水」です。我々はこのようなくありふれた物の存在を通常は無視しているのです。水は、それなしでは人間が生きてゆけないほどに重要な物です。我々は思考方法をもっと単純化させて、物をより良く理解できるように努力する必要があります(編注)人間は複雑に考えすぎて、かえって、バカになりさがったというような意味が含まれている)。

### 王国の生活法を学ぼう

我々人間は創造主が創造した物を誤用するかもしれませんが、それが創造された日が聖なる日であったのと同様に、今日も聖なる日なのです。だから「天にあるがごとく地にもある」と聖書に述べられているのです。基礎はすでに存在しているのですから、どうやって天国に住むかを学ぶのは、我々次第ということになります。

いまかりに私が宮殿を建てたいという欲求、または建てられるという印象を持ったとして、それを建てたとします。そして自分が必要とするすべての物をその宮殿に備えつけます。

ところが、その宮殿は今のところ必要

がなく、そうかといって空家として放置するわけにはゆきません。そこで私はそれを引き継いでくれる若い夫婦を探します。彼らは私に感謝する必要はなく、私はただ彼らがそこで楽しく生活できるように宮殿を譲るだけです。

この夫妻はいままでトリ小屋に住みながらいて、それ以上の家に住んだことは全くありません。しかし結局、彼らは宮殿を引き継ぐことになり、私はそれを譲り渡します。

やがて一年か二年が経過し、私はずっと来て、彼らがどのような生活をしているか見たくなり、宮殿を訪れます。すると彼らは宮殿の生活ではなく、まだトリ小屋式の生活をしていることがわかりますが、このことは宮殿自体を質の落ちた廃虚のような状態にしたというわけではありません。そうでしょうか？

要するに、彼らが宮殿の生活の仕方や学べば、宮殿を宮殿として使用しながら素晴らしい生活ができるのです。

これと同様に、我々人間は、いま天の王国にありながら、そこでの生活の仕方を学ぼうとはしません。結局、我々は地上で同胞と共に生活することができない状態にありながら、こんなことで天国へ行ったとしても、天国で生活できるわけがありません。しかも一方では平和を求めて叫んでいますが、そんなことは何の意味もありません。だからこそ我々は今自分自身の存在理由を学ばねばならないのです。

スペース・ブラザーズの訪問はそのことと大いに関係があります。我々の創造

主は、地球人は孤独ではなく、またこの宇宙には他にも同胞がいること、そして創造主の王国には何の制限もないことを教えてくれています。地球人はこうしたことを認めようとはしません。というのは、自分たちよりもすぐれた、または素晴らしいものはないと考えるようになってしまったからです。そう考えないと怖いのです。しかし、どのようなかたちでも我々はそんな考えを起こしてはなりません。

### 一九四六年の大事件

ここで一九四六年十月十九日にスペース・ブラザーズは大挙して地球を訪れました。通常はそんなに大挙して来ることはないのですが――。

我々アマチュア天文家たちは宇宙船の数をかぞえました。残念なことに月が出ていて、その日の夕方の前半はまだ薄明だったこともあり、大きな宇宙船(UFO)はかぞえることができませんでした。小さな物体はかぞえられませんでした。その場には約二十名の人がいました。この目撃事件はカリフォルニア州のサンディエゴの郊外で起こり、パロマー山の右側の山頂には二百インチの望遠鏡が据えつけられていました。そのとき、降下するUFOを観察しようとB-29が飛び立ちました。

我々はUFOの数をかぞえていましたが、その途中、巨大な葉巻型の宇宙船が約五〜六千フィートのバルカン山とロードリゲス山上空を通過し、サンディエゴか

らロサンジュルスの方へ飛んで行きました。この宇宙船はこれらの山の約三千フィート上空を飛んで行ったのです。この黒っぽい色をした葉巻型宇宙船には、窓やその他の物が見えましたが、通常葉巻型飛行船に付いているバスケットはありませんでした。そこで我々は、たぶん戦争中に、政府がバスケットを必要としない新しいタイプの飛行船を作ったのだらうと思ったのです。

宇宙船がゆっくり動いている様子しばらく眺めていますと、それは突然機首を反転させて、周囲に火花が飛び、空中に飛び上がって、ものすごいスピードで我々の視界から消えました。

一同はラジオをつけてサンディエゴ放送局のK S F B局にダイヤルを合わせてみると、ちょうどサンディエゴ放送が、巨大な宇宙船がサンディエゴ上空を山の方に向かって通過して行ったことを放送していました。数千人の人がこの放送を聞いています。これが戦後に地球上を飛行機の乗客みたいに横切った最初の飛行物体であったことを知ったのです。

宇宙船群は高層ビルの立ち並ぶサンディエゴ市内を通過したため、高層ビルにいた人々は宇宙船の丸窓に人間の顔をした生物が乗っていたのを目撃しました。

この出来事はスペース・ブラザーズの我々に対する最初の警告だったのですがこのことに気づいた人はいません。

私は言葉を尽くしてこのことを話しました。地球の天文学はこうしたことを教えてくれないからです。その結果、人々は私の話に興味を持ちませんでした。

数カ月たったある日、我々がこの出来事を人々と討論していたパロー台地へアリゾナ空軍基地の将校の一団がやって来ました。私は地球へ到達するのに必要な距離といふスピードといい、全く素晴らしいものだと言いました。

すると空軍の太尉が、彼らが砂漠に着陸したとき、我々が、そこからわずか3マイルしか離れていない所にいたことを考えれば、今回の事件は、あなたが考えているほど素晴らしいものではないかもしれませんと言っています。軍はすでに知っていました。そこで我々はいくつか質問しましたが、彼らはほんのわずか答えただけでした。

一九四七年までにケネス・アノルドがレイニア山上空で九機の飛行物体の目撃報告をしましたが、そのとき宇宙船は「空飛ぶコーヒー台皿(円盤)」と呼ばれました。というのは、報告者が宇宙船はといったような形をしたものかと尋ねられて、たとえばコーヒー台皿を手にとって、それを水の上に投げると、静止して水中に沈むまで水面上を上下運動する様子に似ていると答えたことからきています。それ以来フライング・ソーサーと呼ばれています。空軍はこの種の物体に名称をつけることが好きで、彼らはフライング・ソーサーのことをUFO(未確認飛行物体)と呼ぶようになりました。それ以後、最初の目撃事件と同じような目撃が次々と続いたのです。

当時、アメリカは原子爆弾を開発して爆発実験を行っていましたが、原爆実験の直前直後に多くのUFOの目撃に関する

報告が入るようになりました。

### 月面の宇宙基地を海軍は知っていた

その間に、私はポイントロマにある米海軍電子研究所のマクスフィールド担当官から、もし月の写真を撮らたら自分の所へ持ち込んでくれと依頼されました。私は、月の写真を撮るのはよいが、何のために撮るのかと尋ねますと、彼は月には「月人」がいるからだと言っています。そこで、月のどの部分を狙って撮ればよいかと尋ねますと、ケプラー・クレターや他のクレターの部分だと言います(編注IIアダムスキーは非常に早口でしゃべっているのです、このケプラーはカペラとも聞こえる。いずれを指すのかよくわからない)。そして、それらのクレターを注意深く観察し、クレター上で何かの物体の写りが撮れるかどうか注意しろとつけ加えます。また彼は、きみは六インチ望遠鏡を持っているだろうと言いい、六インチならば十五インチやもっと大きな十八インチ、あるいはそれ以上の望遠鏡よりも取り扱いが簡単だとも言いました。大口径のものは操作が困難なことは事実です。そこで私は申し入れを受けて、そのようにしたのです。私は最初の写真を撮って、言われたように研究所宛送りました。

彼らは私ができるような種類のフィルムを使用したか尋ねませんでした。一通の手紙を送ってよこしただけです。その手紙を受け取ったとき、私の所に数人の報告者が来ていました。手紙には、ロール

フィルムが寒暖の気候の中に置かれていたので、カプットしてしまったようだと書いてありました。このことは私がチャーチルの甥のデスモンド・レスリーと共著で出した最初の本の中に述べてあります。彼らは私が乾板を使用していれば、カプリーは起こらなかったらうと言っています。私はロールフィルムを使用しています。したがってカプリー現象が起こることなど考えられないのです。全くの間違いです。

手紙の最後の部分で、彼らは、この被写体が訪問者(宇宙人)と関連があるとは信じられないと書いていました。しかし、他の惑星からの訪問者など存在しないのなら、わざわざそれについて述べる必要はないのです。

そこで、その場にいた報告者たちは、その手紙を公表したいと言いました。前にも述べましたように私は軍に協力してきたのです。軍とのあいだでトラブルを起こすのはイヤでした。そこで手紙のことはそのままにしておいたのです。

しばらくして軍の高官が、宇宙人が砂漠に着陸したことを放送網を通じて公表しました。一九四九年のことです。宇宙船が降りてきて砂漠に着陸したのを軍は目撃したのでした。

着陸した宇宙船から四人の男が出てきて、船体の周囲を走りまわり、あたりを見渡した後、ふたたび宇宙船内にもどって離陸して行った様子を目撃したのでした。

前にも述べましたように、砂漠で核実験が行われたり、核爆発があったりする

と、きまって宇宙船の目撃報告がありました。

そこで私は自分の六インチ反射望遠鏡を柱脚から取りはずし、三脚に取り付けて観測に出かけたのです。日数はほとんど過ぎてゆきましたが、その間何事も起こりませんでした。しかし二〜三回、私は何かを捉えられました。私は望遠鏡に取り付けた、アイピースなどの部品が付いているカメラで九百枚ばかり写真を撮りましたが、あとで現像してみると、そのうちのたった十八枚が良く撮れていただけでした。このことからみて、UFOを撮影する際は多大の労力と時間を必要とすることがおわかりいただけると思います。このときは何枚かの良い写真を撮りました。何かがこのモハビ砂漠ですっと起こり続けているのです。

### 宇宙人墜落死事件!

一方、つい最近亡くなったフランク・スカリーは一年半前に「空飛ぶ円盤の背後にあるもの」という本を書きました。

これは宇宙人が来訪しているこの地球に対する警告の書としては最初のものでした(編注IIフランク・スカリーをインキ呼ばわりする研究者が国内外に多いけれども、彼の書物は驚くべき真相を暴露した重要な資料なのであって、あわてた米軍部が猛烈な圧力をかけて、結局、インキということになって葬り去ったのである。事情を知らない「トゥル」誌までがスカリーを山師扱いにした。本誌はスカリーのこの貴重な書物の翻訳を数回

にわたって連載したことがあるが、スペースがないために中止している。

この本の中で、二機の宇宙船の内部で各十六人ずつ、合計三十二人の宇宙人が死んでいたことが書かれています。残りの宇宙船は現在オハイオ州デイトンに保管されており、死体もそこに持ち込まれました。宇宙船自体も小さなもので、宇宙人たちは背が低く、六フィートの身長の人はこの機体内に入れません。船内には四〜五フィート（一・二ないし一・五メートル）の身長の間がいました。彼らはつぶされてきました。

船内には電気機器や電磁機器が並んでいました。彼らは地球を回転させているパワーと同じパワー、または我々が光と呼んでいるパワーと同じものを宇宙船の推進力として使用していません。それは電気のパワーです。忘れないで下さい。彼らはそうしたパワーの利用法を知っていて、ガソリンにかわる燃料として宇宙船の推進に利用していたのです。とにかく我々が引力と呼んでいる電磁的な引きつけ力が強かったため、彼らは両極を切り換える必要があったのです。つまり地球は陰極ですから、その陰極に対して宇宙船を陰極にする必要があったわけです。彼らは陰極が発して船体をゆっくり上昇させるのに十分な陰極のパワーを放射したのですが、その装置が故障して、彼らは地上にたたきつけられたのです。わかりますか？

この事故以来、彼らは宇宙船の機能を改良しました。このことは、それ以来この種の事故が起きていないことから判

断できます。しかし、いずれにせよ、この事故が起こって以来、米国はより深くこうした問題について観察し始めるようになったのです。

私がこの事件に関する話を終える前に皆さんにお話ししておきたいことは、軍が保管しているということ以外、宇宙人たちの死体がいつ現場から持ち去られたかを知っている人はいないという事実です。

フランク・スカリーの本が出版されてから数カ月後、私やスカリーやその他何人かの人が軍から呼び出しを受けましたので、私は秘書ともう一人の女性をつれて出頭しました。事件が処理されたのかと尋ねますと、彼らは「そうだ」と答えました。このことは公表されていませんし、また、その呼び出しを受けたときの会合で互いに話し合った内容についてもついに公表されることはありませんでした。

席上、あらゆる種類の事柄が取り上げられました。軍のお偉方や報道機関の連中、情報局の連中もその会合に出ていましたが、会議の内容は極秘にすることに決定されました。この会合に関するいかなる印刷物も出ていません。

会議の席上で一通の手紙が読まれました。その内容により我々は宇宙人の死体に何が起こったのかを初めて知ったのです。手紙はロックフェラー財団からのものでした。その財団へ死体が運び込まれたのです。

手紙の中には、牧師が死体を最終的に処理することについての最終決定権限を

持っているといったことも書いてありました。

もし皆さんが正確に記憶されていたらロサンジェルズでカール・スベルマンやカール・マーカンタイアが質問を受けたことを覚えておられるでしょう。彼らの名前は極秘にされていたのに、どうして彼らの名前が一般に洩れたのかわかりませんが、いずれにしても、だれかが洩らしたにちがひありません（編注）この二人はUFO墜落事件で死んだ宇宙人の死体を葬った人。何者かが彼らの名前を洩らし、どこかで死体のことや、それら宇宙人のことに関連してその牧師を非難したのです。

法王ヨハネ二十三世が亡くなる前に、法令や規則を最終的に作り、彼らが要求すれば、いかなる所から来た人体であろうと、処理に関する最終権限は彼らにあるといったことを、その牧師は言ったのだと思います。当時このことについて多くの議論をかもし出しました。

それで我々は、これらの死体が最初どこに保管されていて、どのような処置が施されてから適切な方法で埋葬されたかを知りました。

こうしたことは以前から続いています。すべての事がそうです。私は当地に（ニューヨークに）二カ月間滞在して、こうした事件に関することや、人々がこの惑星地球から他の惑星へ飛び立って行ったこと、その他いろいろなる事柄で、神秘的でも何でもない事に関して実際に記録が残っている事件について、皆さんにお話ししているのです。

## 突然の蒸発

キリスト自身も天（各天体）と地（地球）とが存在することや、天と地は過ぎ去っても、彼の言葉は永遠であると言っています。しかし今や彼の永遠の言葉に出でくる天や地よりもっと偉大な何かが存在しているにちがひありません。また彼は、新しい天と新しい地とが興るだろうとも言っています。言い替えれば、物質というものは、それが人体であろうと惑星であろうと、あるいは他のいかなる形をとろうとも、やって来てはまた去って行くものなのです。再生は、活動が永遠に続く限り、連続して行われるのであって、とどまることを知りません。

さて、この地上から連れ去られた人々の話があります。飛行機のパイロットやその他の人々で、飛行中とかその他の場合でも突然いなくなり、いなくなったきり、もどって来ることはなかったことが報告されています。

彼らのうち、かりに何人かがふたたびもどって来たにしても、どこで何をしていたかについては黙して語らないことがほとんどです。彼らは自分たちが学んだということすら知らないのです。

## 一九五二年のコンタクトの真相

一九五二年十一月二十日、私は人類学研究者たちの訪問を受けました。彼らうち二人はアリゾナから来たのです。私は宇宙船(UFO)の良い写真が撮れる

ように願いなから砂漠へ出かけました。その日はブライスからほんの三十マイルの所にいました。ブライスはカリフォルニア州とアリゾナ州とを分けているコロラド川の近くにありす。

その古い、水の干上がった湖の近くに、戦時中使用されていた古い飛行基地があります。今は取り壊されていますが建物も何もすべてがついに最近取り壊されたのです。現在は何も残っていません。我々はここへ行きました。道路はパーカー・ダムやインディアン保護地区に通じています(下の地図参照)。

我々は脇道から十マイルほどその道路にそって歩き、デザートセンター側へ出ました。ハイウエーの斜面を登ったり降りたりしているうちに斜面の途中で宇宙船(UFO)を目撃して立ち止まりました。巨大な宇宙船が降下していました。翼もなく、オレンジ色のバックに大きなマークをつけた大母船でした。

私は出かけるときはいつも望遠鏡を持っていましたし、望遠鏡には八枚の乾板を用意していました。撮影の準備をしてそのあとやることは、カメラを取り付けることだけでした。

望遠鏡で撮影を行うときはカメラのレンズを使用してはだめです。それを取りはずしてシャッターを使用しなさい。つまり望遠鏡のレンズを使用するとよいのです(編注)間接撮影でなく直接撮影のほうが良い結果を得られるの意)。

我々は取り付けを終了しました。巨大な宇宙船は母船です。ちょうど我々が飛行機を運ぶときに使う甲板の平らな航空

母艦と同じ役目をします。

それまで我々は母船について知りませんでした。写真で知らんになってご存知と思いますが、例の丸い型をした空飛ぶ円盤が一機、母船から出て来たのですが我々一同は望遠鏡の取り付けに夢中になっていて、それが母船のどの部分から出て来たのかはわかりませんでした。

ついに望遠鏡が円盤をとらえました。大きな山があり、視界いっぱいには広がる砂漠や溝があります。砂漠に雨が降ると溢れて低地に流れ込むので、ほんの少し溝ができています。

小型円盤は周辺を飛び始めました。八枚の乾板はすぐになくなってしまいました。円盤がどのくらいカメラの視界の中にとどまるかわかりませんでしたし、カメラのピントを合わせている時間などはないのです。ただ円盤を撮影するためのシャッターチャンスを狙うだけでした。円盤が丘の間に隠れて見えなくなってしまう。一同は望遠鏡を解体して車の中にもどしました。

**非常に上品な人物がいた!**

アリス・ウェルズ夫人はかなり絵が上手なものですから、円盤の乗員をスケッチしました。円盤から出て来て我々に手を振った男がいたのです。私は注意深く観察して、相手の望んでいることを理解しました。そこで相手の方へ歩いて行ったのです。

沢山の人が宝石などを探し求めて、このカリフォルニアの砂漠や山中に入り込

▼米カリフォルニア州南部



んでいることを知っていましたから、砂漠に人がいることは目新しいことではありませんが、私はなおも注意深く

接近して行きました。最初、私はこの男もおそらくそうした山師の一人だろうと思ったのです。とこ

ろがだんだん近づくにつれて、その男が世間で言われているような山師などではないことがわかってきました。

そこには非常に上品な人物がいたのです！と同時に警戒の想念が薄らいでゆくように思われました。そして何の恐怖心もなく相手に近づいて行ったのです（編注：銃砲類が野放しのアメリカではこんな辺鄙な土地で見知らぬ人間に接近するのは通常危険である）。

相手の男は髪を両肩まで伸ばしており女性と男性との中間のように見える人物でした。非常に繊細な感じのする人で、上下がつながった服を着て、幅広のベルトをしめていました。ベルトは一本にながっているようでした。あとになってから、実際は上下別々の服を、幅広のベルトでもって、つながっているように見せていることがわかりました。

私は相手に話しかけようとした。相手は私の言葉を理解したようですが、相手からは答は得られませんでした。私は相手が何者なのかということ、そのすべてを知りたくまりました。そのとたん、私は相手の男が別な世界の人間だということに気づいたのです！私は相手に尋ねる機会を得ました。

時刻はちょうど昼で、太陽は天頂にありました。私は太陽を指さしてから次に一つの軌道を描き、「水星」と言い、続いてもう一つの軌道を描いて「金星」と発言して、更に軌道を描いて「地球」と言ってから、それを繰り返しました。

すると男は同じように太陽を指さして一つの軌道を描き、更にもう一つの軌道

を描いてから自分自身を指さしました。私が「金星？」と尋ねると、彼はうなずいて「イエース」というふうに答えます。それで相手がどこからやって来たのかがわかったのです。

しかし彼が母船からどうやって出て来たのか、あるいは彼が実際にどこから来たのかは、まだわかりません。

風が見通しのよい場所に吹いていましたので、それが円盤の縁にあたって、ほんの少し揺さぶったのでしよう。光の反射が消えましたが、私は自分の視界の端に円盤をとらえて、見続けていました。

ついにその一部分をはっきりと見て驚きました。丸く見えるのです。大部分は丘の背後に隠れているのだろうと思いましたが。

そこで私は尋ねました。

「あれは、あなたの宇宙船ですか？」

相手はうなずきました。

おわかりでしょう。相手は私の言うことが理解できたのです。私は「あそこへ行ってみましょう」と言いました。

彼が体を動かすと、立っていた砂地に奇妙な紋様のような跡が残っているのにすぐ気づきました。非常に不思議な紋様です。私はそれを消さないように注意しました。あとで一人の人類学者がこの紋様を石膏に採りました。

さて、二人は最初に出会った場所から約二十五ないし三十メートル歩いて行ったのです。ウェルズ夫人は絵が上手ですから、一枚の紙にこの人物をスケッチしました。その後、ある画家の手で金星人のカラーの肖像画が描かれましたが、と

にかくウェルズ夫人の人物スケッチは十九パーセント正しいものでした。

二人は円盤の所へ行き、私は機体を少しばかり調べてみました。おわかりのように、これはフランジ（スカート状）になっていますが、相手の男は、宇宙船に近づいたらフランジから離れると注意しました。

円盤は地上から三〜四メートル浮かび上がっており、船内にはもう一人乗員がいたようですが、私には見えません。

えらく興奮して我を忘れた私は、何千もの質問をしたいところですが、口から出ないままに、その辺をうろろするだけです。あちこち歩きまわっているうちに、私の肩がフランジに触れたと思っただけです。腕が捕えられてフランジに叩きつけられたのです。体の姿勢を立て直すと、今度は蹴り返すような衝撃を受けたのを見ると傷ついていました。彼はジュスチニアで大丈夫かと尋ねました。確かに大丈夫なのですが、以来、とぎたま一年に

一度か二度ほど動かなくなるようなことがあります。しかし長い間ではなく、せいぜい五秒程度で、あとは元にもどります。

とにかく私は相手に話しかけました。そのとき彼が発した唯一の声は、原子爆弾について話したときで、彼は「ポーン」と発音しました。更に、それが悪い結果を及ぼすのだという意味合いのことをジュスチニアであらわしました。

地球の上空には、パンアレン帯と呼ばれる放射能帯があります。我々地球人が核実験をやればやるほど困難な目に会うことになるのだと彼は言います。覚えておられるかもしれませんが、約二年前、クリスマス島とジョンソン島でミサイルの核弾頭を二マイル上空で爆発させようという計画がありました。救いようがありません。実験のいくつかはうまくゆかず、そのうちの一つが途中で爆発しました。何人の人が傷ついたか聞かされていませんが、とにかく二マイル上空ではなく、二百マイルの高度で一個を爆発させることに成功しただけです。二百マイル上空にパンアレン帯よりもっと危険な放射能帯を作ってしまったのです。宇宙人はまさしく真実を伝えてくれたのですが、地球人はそれに耳をかそうとはしませんでした。

今日我々は自分たちの作った放射能帯から悪影響を受けています。

(以下次号)

志田真人訳



▲石膏をとる一行。中央がアダムスキー



## 永遠の生命を 得るには

本年3月18日の岐阜支部大会  
における講演より(一部省略)

日本GAP岐阜支部代表  
松尾和也

本日はいかにしたら永遠の生命が得られるかという事についてお話ししたいと思います。私は真実の道理について皆さん方にお伝えできるような者ではありませんが、最善を尽くしてみましよう。

まず、永遠の生命を得るには私達の生命を支えている宇宙の意識なるものを理解する必要があります。意識とは万物の生命を支えている、肉眼に見えない英知でもありますし、車のエンジン内で動いているピストンやエネルギーのようなものでもあります。動物にせよ植物にせよこの裏面を支える意識という生命の火花がなければ生きられません。砂の一粒すら存在することはできません。そして結果であり形態でもある万物は去来し変化しますが、それらを支えている本源なるものは永遠に若いままにあります。

### まず宇宙の意識の存在を知ること

宇宙の英知は初めに言葉の想念によって万物を創造しました。そして英知によって万物を形造る際に青写真原図を作り振動するエネルギーという生命の息を万物に与えました。そして万物は創造主そのものの英知と魂を持つに至りました。それら万物は至上なる英知から化身した子供のようなものです。そして人間はみな父親に似るように成長するのです。人間の内奥には本来の魂があり、それが向上しようという衝動を与えるのです。謙虚で熱心な人は自身の内奥の親切に賢明な声の印象に従うでしょうが、自我のエゴ心に振り回されている人は、眼で見る物や耳に聞こえる物に左右されて、内奥の意識の指令などには耳を貸さないでしょう。アダムスキー氏は、『宇宙哲学』の中で、「われに従え、わが語る言葉こそ真理なり、というので、人々は盲目的にそれに従うけれども、生命の深い意味を理解しない」と言っています。そうで

ず。一般人は内奥の意識の意志を聞くこともしませんし、父(創造主)そのものを決して知ってはいけません。ましてや創造主と人間との親子関係を理解している人は少数です。父は宇宙の意識を通じて私達人間に毎日語っているのです。人々が知らないからといって父と話し合っていないとは言わないで下さい。私達は働くにも考えるにも夜に寝るにも、意識という師に毎日ご厄介になっているのです。

私達はこの泥沼のようなエゴ社会で毎日生活していますが、私達の心という白い着物にはエゴ心のエゴのために色々なシミや汚れがついています。貪欲はチョコレート色の汚れであり、怒りはケチャップの汚れであり、嫉妬や憎しみはチューインガムが着物についたようなものです。仏陀も言っています。白い清らかな布は染めるときにきれいに染まるが、貪欲、怒り、愚痴等で汚れたきたない布はいくら染めてもきれいに染まらないと。人間のエゴ心というものはペンキ屋さんの汚れた服のようなものです。意識という洗剤でよく洗わないと決して汚れは落ちません。

宇宙の意識は電力と知性のようなものです。電気のソケットに手をつっ込んで感電することもありますし、有利に用いればテレビやレコードを楽しむこともできます。カルマはついてまわるのですから、宇宙の法則をよく理解する必要があります。

### 一戒だけで充分である

私達は自分を愛するように隣人を愛せよと教えられました。また友人のために自分の生命を投げ出す以上に大いなる愛はないと教えられましたし、殺すな、姦淫するな、盗むな等々、沢山ありますが、何百という戒律は結局次の黄金律に帰するのです。

「自分が他人にして欲しいと思う事を他人にせよ」

このたった一戒で充分なのです。ですから他人が非難をあげるときにも、寛容と忍耐の精神を忘れずに行きましょう。隣人が求めるときには下着や上着をも与えようではありませんか。家族がののしり合っている時、自分だけは平安と調和の精神を持ちましょう。利己主義は私達の体のサビのようなものです。そのうちに内部の骨まで腐ってくるでしょう。貪欲は食いすぎの胃のようなものです。やがてパンクして命を失うでしょう。ですから愛という慈悲心を私達の頭のカンムリとし、不動の信念と忍耐力を身を守るヨロイにしようではありませんか。そして謙虚さと感謝を耳飾りにし、へりくだった尊敬感を胸飾りにしようではありませんか。

### 南米時代の過去世を思い出す

生命の宇宙的な概念を得るために、ここでひとつ私が過去世の記憶を呼びもどした体験をお伝えしましょう。

今から七年程前のある夜のことです。私は友人と一緒に車の助手席に乗っていました。するとカーラジオから私が今生

で生まれて初めて聴く珍しい曲が流れてきました。それは南米ペルーで伝わっているインカ民謡で、『コンドルは飛んで行く』という笛の曲でありました。そのとき私は曲名を知っていませんでしたがその笛の曲を初めて聴いたとき、何か懐かしい悲しそうな曲のため、体の心底からこみ上げてくるような強烈なフィリリングにおそわれたのです。胸が熱くなり、ジーンとするのです。初めて聴く曲ですが、以前から知っているような気持がします。眼から涙が流れました。全く今生で起こしたことはない異様な感じがするのです。そのとき、ある過去世での出来事を思い出しました。私がこの体験を過去世の記憶のよみがえりだと気付いたのは、数年後になって『生命の科学』を読んだからです。確かにペルーのリマという地名に強いフィリリングを起こすのです。

これは実際に日本人のなかでも過去世において色々な人種であった人が多種多様に存在することを示しています。黒人であった人、インディアンであった人、東洋人、白人、他の惑星人等、さまざまです。

こうした過去世の体験を持つ人々が町の中を歩きまわっているのですから、人種差別をするのはナンセンスです。宇宙の意識には肌の色などないからです。しかるに、やれあいつは××人だ、△△人だと言って非難します。どんな人でも宇宙の英知の現れであり、父の息子や娘なのです。人種などは移り変わる仮の姿にすぎません。

ですから私達も意識から来る感じ(印象)や衝動に従うクセをつけることよいのです。そして実際に自分の身に押しあててよく考えるのです。自分の意識とは何かと。このことは重要です。なぜなら宇宙的な過去世の記憶や才能が埋め込まれているからです。また永遠の自分を見つけて出すこともこれにかかっているからです。

## エゴをコントロールしよう

永遠の生命を得るためにその次に重要になってくるのは、エゴ心を支配することです。利己的な想念を取り去るときには胸の張り裂けるような苦しみを味わわねばなりませんし、利己的なエゴ細胞が苦しみ悶えるときには断腸の思いです。たとえばニコチン中毒の人がタバコをやめるようなものです。何度も禁煙に挑戦しますが、ニコチンに犯された細胞は苦しみのうめき声を上げてタバコを要求します。しかしこれに打ち勝つには不動の信念と忍耐力を必要とします。エゴを支配するのはこれと同様です。信念の弱い人は脱落するでしょう。エゴ細胞は美しい女性を見れば抱きたいと想い、豪華な大邸宅を見れば自分も欲しいと思いきなり、必要もないのに一千万円の現金が欲しいと思ったりします。しかし仏陀も言っていますように、ヒマラヤを黄金と化して二倍にしても、よく一人の人間の欲望を満たすことにはないのです。欲望は苦しみを増すばかりです。金のノベ棒がダンブカーに一台分あるうが、土地の資産

が百町歩あるうが、転生のときには持って行けません。持って行けるのは宇宙的な体験で得た宇宙的な信用や記憶、才能といったものです。

それよりも宇宙的な想念や行為である慈悲心や同情、信念、勇気といったもので毎日の生活を生かすことが大切だと思います。私達が転生するときに、それらが私達の生命をあとになって支えてくれるからです。

## 永遠の生命とは

永遠の生命を得る可能性を示さない人は魂が消し去られます。このような自然淘汰の法則があるのです。意識の意志に反して極悪の限りをつくす人は十五〜十六回の転生で滅亡します。実を結ばない木は火に投げ入れられるのです。たとえ木は火に投げ入れられるのでも、悪い私達でも金魚の稚魚を選別するときには良い金魚と悪い金魚をより分けて、悪い金魚は淘汰してしましますが、これと同様です。

この時代の天の摂理が終わるまでに、残念ながら多数の人々は火の中に投げ入れられるでしょう。世の中の人々は極端な利己主義と貪欲の炎で身を焼いているからです。宇宙の法則に反しては長生きできません。宇宙の法則は永遠で普遍的であり、どこかの惑星へ行っても不変であるからです。ですから謙虚さと感謝の中に生まれ変わらうではありませんか。人間は二人の主人に仕えることはできません。イエスは言っています。神と富とに兼ね仕えることはできないと。人間の心

が金銭を主人にしているとき、宇宙の意識はどこにおればよいでしょうか。

スペース・ブラザーズは宇宙船の写真を撮らせて地球人のエゴを満足させるために地球へ来ているのではありません。人生の目的や人間の真実の生き方を知りたい人に教えに来ているのです。そして一人でも多くの人に魂のレベルで生き残って、永遠の生命を得てほしいのです。今世紀中に第三次大戦が起こるかもしれませんが、そのとき一人一人が自分の身をもってその事を証明しなければならなくなるでしょう。

クリスチャンや牧師さんは、終末のとき、墓に入っている死人をイエスが来て復活させて永遠の生命を与えてくれると言っていますが、実際に墓に入っている死んだ人の骨を再び組み立て直して永遠の生命をイエスが与えてくれるのではありません。真実の意味は、この世界のいわば死人同様で半分しか生きていなくて眠りこけている地球人のなかで、対地球救済計画の一部である『生命の科学』や『宇宙哲学』などの書物で生命の法則を理解して実行した人達は永遠の生命を得るということことです。アダムスキー師は過去世でイエスであった人と親密でありましたし、他の惑星のブラザーズの意志を受けて地上で計画を続行したのです。そして地上で眠りこけている人達に実際に宇宙的な生命を与え復活させたのです。

牧師さんに言わせると、永遠の生命とは樹木のような五百年とか一千年の生命なのだという事です。しかし樹木の生命もいつか枯れてしまうのですから、

これは永遠の生命ではありません。永遠の生命とは、永遠に人間が生まれ変わって転生して、宇宙的な過去世の記憶を持つことです。宇宙的な記憶は魂的なもので、意識に記憶されているのです。ですから心が意識の魂と一体化しなければ過去世を思い出すことは不可能です。

### 狭い門から入ろう

イエスは言っています。「肉体を斬る者を恐れないで、魂を斬る者を恐れよ」と。人間は心の魂と意識の魂の二つを持っていて、心の魂は日常の喜怒哀楽の生活のために絶えず浮ついていて、意識と連絡しません。そのため心は生まれ変わるときに無価値とされて斬られてしまうのです。そこで宇宙的な記憶は意識と心が一体化したときに見い出されます。このことは子羊とライオンの結婚で象徴されていますし、放蕩息子が父のもとへ帰る道でもあります。

私達は次のように聞かされています。「狭い門から入れ。滅びに至る門は大きく、その道は広い。そこから入って行く者が多い。しかし命に至る門は狭く、その道は狭く細い。そしてそれを見い出す者は少ない」

命に至る門とは一体何でしょうか。私達は『生命の科学』を通じて今、現在、命に至る道を勉強しているのです。実際問題として、この日本で何パーセントの人が真剣になってこの狭い命の門を必死になって学んでいるでしょうか。大多数

の人々は円盤が実在することや人間の転生などを決して信じません。ですから命に至る門がいかに狭いか皆さん方にもよく理解して頂けたいと思います。私達がアダムスキー氏の哲学を勉強できますよ。はびょうの米俵の中の寶石を探さよう。私達は幸運にもその門の前で立って歩いています。その歩みは遅いかもしませんが、前進することをやめなければ、いつかは命に至る黄金の門をくぐって、永遠の生命の道に足をのせることができるでしょう。生命の深遠な法則を知りもしない一般人に耳を貸す必要はありません。自分自身の魂を救いたかったら、ゴールに向かってタマを打ちまくることです。

### 盲人の過去世を透視する

さて以前にも岐阜例会でお話ししたことがありますが、もう一度話してみよう。今から約五カ月程前の日曜日の夜に私は唄子けいすけの『おもしろい夫婦』というテレビ番組を見ていました。そのときに出演されたご夫婦はマッサージの仕事をなさっておられて、奥さんの方は気の毒にも生まれつき盲人なのです。ご主人は少し眼が見えるらしいのです。その盲人の奥さんが今一番見たいものはわが子の顔と、新築したわが家であると言っておられました。それで、なぜ自分が生まれつき盲人で難儀な目にあわねばならないのかわかりませんとおっしゃっていました。唄子けいすけさんも思わずもらい泣きをしておられました。私

はそのときフト、なにゆえにこの奥さんはこのような現世があるのかと思い、奥さんの顔や体の細胞から来る印象をテレビを通じて感受してみたのです。

すると驚いたことに、顔や体は男性で白人のような風ぼうが見えて、女性には見えません。そして更によく凝視して見ますと、驚いたことに古代ローマ時代のローマ軍団の兵士の姿が見えるではありませんか！ その時代に大変な原因を作っておられたのです。頭には古代ローマ軍団のカプトをかぶり、体はヨロイや武器で固めています。そして当時の戦争のときに、なんの罪もない若い母親とその子供に暴行を加え、辱しめ、あげくに殺害してしまつたのです。その印象は脳裡で生き生きと映像化されました。

そのとき私は次の言葉を思い出ししました。自分でまいた種は自分で刈り取らねばならないと。そうです。その奥さんは過去世でまいた悪い原因を今刈り取っているのです。しかも生まれながらの盲人として難儀な目にあいながら、仕事や生活で疲れた人々の体を自分の身をもってマッサージをして助けているのです。そして罪を償っているのです。その奥さんはそのことに気付いてはいないかもしれませんが、宇宙的な愛や奉仕の精神でもって一生懸命に働かれれば、この苛酷なカルマからものがれ出ることができると思っています。宇宙の法則は厳然と行使されています。前生でまいた種や生き方は今生になって現れてきます。私達は、みな進化して良き惑星に生まれ変わろうとしています。実際、進化とは健全な道徳の

原理を発展させることであり、また人間の性質を向上させることであります。私達が良き惑星に生まれ変わらなければ今生で良き原因を作る必要があります。人々を助け、家族にも優しくして、自分を愛するように他人を愛さねばなりません。百の言葉より一つの実行です。私達はその愛を行うよりも、あまり時間が残されていないとは思えませんが、やはりやらねばなりません。最後の最後までおだやかで柔和で慈悲深く、他の生命体を尊敬する必要があります。

### オーソン氏が助けた！

宇宙の意識は人生におけるすべての行為の記録器です。もし心が意識と連絡していなければ、その記憶は短いのです。というのは心は永遠のものではないからです。しかし心は意識と混和することによって永遠のものになれるのです。これをなすには私達の感覚器官の心によく印象づけられた状態になっていると確信するようになるまで意識を知らしめて焼印するのです。そうすれば忘れることはありません。しかしこれは宇宙の視覚すなわち意識の眼で見ることによってなされます。

このことに成功すれば内奥の宇宙の意識なるものの啓示というものがわかってきます。あるときは心が世俗の気苦労から解放されたときや、あるときははうつらうつらと半分眠っているときなどに走馬燈のように脳裡を映像となって自分の過去世の一場面が浮かび上がってきます。

そうして宇宙的な記憶の断片を拾い集めるのです。はじめはハメ絵パズルのようなものですが、やがて長年月をかけて啓示に耳を傾けるクセをつければ、だんだんわかってきます。宇宙の意識による啓示に従うときは、心が勝手に筋書を作ったり邪魔をしないように注意する必要があります。啓示に従うときは何物をも恐れず、神の面前で話を聞いていくのよう、謙虚で誠実な態度を保つ必要があります。

私は少なくとも四回の自分の過去世を知っています。ある過去世ではジャングルをハダカですごした土人女性としての自分とか、その他では米国の西部開拓時代後半に若い女性として母親と一緒に汽車に乗った記憶があります。ですから皆さん方もあせってはいけません。意識の啓示は静かにソートと与えられるからです。

昨年の九月のある夜に、私が寢床でうつらうつらしていますと次のような啓示の映像が見えました。久保田先生が(出版社の)会長の椅子にすわっておられますと、その椅子が前方へ倒れて、すぐ前の深い用水の川へ落ちて行ったのです。すると少ししてからオーソン氏が出て来て、両手で久保田先生を抱き上げて助けてくれました。私にはわかりました。先生は出版社を辞められることと、オーソン氏の援助があることを。このことは十一月になってから実現しました。一般人がこの話を聞けばたわごとぐらいにしか思わないでしょうが、大切なのは自分自身の内奥に宿る宇宙の意識に対する

る強い信頼と確信があなた方を永遠の生命に導いて下さるということです。

私達の人生においては、色々な体験や物事が本人をテストするために現れるでしょうが、どんな辛い試験にあつても決してくじけてはなりません。苦しいときにも最善をつくす人は学んで進歩するでしょうが、エゴでしか考えない愚かな人



5月12日、東京月例会  
における体験発表

## 私はこうして GAPに たどりついた

新派舞台女優 衣笠陽子

は荒れ狂って自分を破壊するでしょう。食欲や怒りは自分の口から毒薬を飲むようなものです。いずれは自身の生命を殺すのです。  
最後にひと言申し上げます。自分を救う者は自分自身です。ほかにはありません。内部に宇宙の意識が存在するからです。有難うございました。

今年は一九七九年ですが、六年前の七年の二月でしたか私には「十戒」という映画を見ました。チャールトン・ヘストンとユル・プリンナーの出でくる出エジプト記のモーゼの話なんですけど、それまで私は浪人してまして、ふらふらして浮ついた生活をしていました。日本舞踊はずっとやっていたんですけどみんなが大学に入っているにもかかわらず、私はきまったコースを歩くのはイヤだとか言っちゃって、私は私の道を行くとか、エラそうなことを言いながら、車を乗り回して遊んでいたんです。

その映画を見たときに背中のあたりがビリビリとして何とも言えない恍惚感にひたりまして、私、何かしなきゃいけない

いんじゃないかしらというような、とても真剣な気持ちになりました。そのときはまだ父親が生きていたものですから私、どうしても演劇の道に進みたいから、お金を出してくれないかと、なんとか宣言みたいな手紙を書いたんです。そしたら父が「何を言ってるんだ。大学にも入らない者が何ができるんだ。入ったら何をやってもいい」と言うもんですから「ああ、そうですか。じゃ入ります」と言っ、三週間しかなかったんですけど、準備したら、まぐれで日大芸術学部に入っちゃったんです。

それから私の本当の勉強が始まったんですけど、見えない「だれか」が助けてくれたような気がします。そして大学に

入ったのはいいんですが、日本の大学生はなぜあんなに勉強しないのだろうと、入って一日目から失望しまして、こんな所に長くはいられない、いられないと思っていたときに、ギリシヤから国立劇場のグループが来て、縁があつてそのディレクターに紹介されて「一年間ぐらい来て勉強してみないか」と言われました。それで四カ月ほどギリシヤ語を勉強しまして、ジュリエットのモノローグをやつて、オーディションを受けて、それが入ったんです。

それまでは、不思議な体験は全然していませんでした。そのあたりから潜在意識にとっても興味を持ちました。ギリシヤへ行つたときに飛行機から降りようとしたら、窓の外にパーッと虹がかかっていました。そのとき私は違う世界に入つて行くんじゃないかという気がしました。そして初めて飛行機に乗ったときに感じたことは、上空から眺めたら国境線なんてないじゃないか、というのが最初の旅に対する印象なんです。雲の上を飛んでいたときは、まるでアラジンのランブじゃないけど、雲のジュータンみたいでした。

それでギリシヤへ行つて学校の勉強を始めたんですが、その頃から自分の意識が次第に変わってきたんです。ちょうどそのときハムレットを勉強して「生きるべきか、死ぬべきか」というのを——皆さんご存知だと思わんですけど——やっているうちに、死とか眠りとか、眼に見えない死後の世界にとっても興

味を持つようになりまして。

そのとき現れた、とても不思議な女の子がいるんです。きつとあの人はスペース・シスターじゃないかと思えます。

彼女が私に、神というのは外にいるのではなく、人間の内部にいわゆる神というものが存在しているということを知らせてくれる役割を果たしてくれたんです。

### 夢で守田勤弥の死を予知

そこまではたいした出来事はありませんでした。一月に夢を見たんです。

というのは、その頃友達だった歌舞伎俳優の坂東玉三郎さんの家へお葬式をしてる夢です。お母さんがすごく悲しそうに顔をして私の方を向いているんです。直感的に、これは人が死んでお葬式をしてるんじゃないかと感じました。これは一月のことです。すると二月の二十八日だったと思いますが玉三郎さんのお父さまだった勤弥さんが亡くなったらしくて、母から新聞の切り抜きを送ってきただけで、三月の五日頃だったと思いますけれど、私は不思議な気がしました。でも夢を見たのは死ぬ前ですから、ああ、不思議だなあと思いました。

### パリでUFOを見る

それで今度はパリへ五月に行ったときに、昔密教の修行をしたお坊さんに偶然めぐり合ったんです。そのときはマクベスの研究をしていました。人間の欲望は

どこまで掘るかというような話をしたんです。多くの俳優は自己顕示欲がとて強いんです。自分を他に示したいという気持は私にも強くありました。いま考えれば恥ずかしい話です。それ。それをその人は反面教師的にいろんな言葉をそそぎながら、まるでマクベス夫人のように私を増長させたわけです。

でも、なにか変だなという気がして、あれ、この人は何かを私に教えようとしているんじゃないかと思っただけです。それで「今まで、あれこれとおっしゃいましたけど、本当はこうじゃないですか？」と言ったら、「よく気がついてくれた」と、そのとき本心を伝えてくれたわけです。

それで、そのとき般若心経の話を聞いていて、急にパースと眼の前が開けたような気がしたんです。それは七年の九月五日の夕方です。パリのモンパルナスに住んでいましたので、その辺の広い所を歩いていました。本当にそのときは幸せで、自分がなんとも言えぬ自由になったような気持になりました。

ふと空を見上げますと、木の所になにかピカピカ光る物が木の上方にあるんです。私はジッと立って、何だろうと思いつつながらジッと見ていたんです。そしてクリスマスツリーについていた電球みたいに点滅しているんです。色はオレンジ色だったと思います。ずっと立っただけでジッと見ていたら、そのうち、クラゲが海の中を泳ぐように、フワッとほのか彼方へ移動して消えました。飛行機にはおかししいし、何だろうと、不思議な気持を

もち続けて、それから日本へ帰って友達に話を聞いたら、もしかしたらUFOじゃないかと言うわけです。私もたぶんそうだと思うんですが、確証はありません。

日本へ帰ってから新派という舞台へ入って、一年間ほど菅原謙次の部屋に入りまして、いろいろ勉強しました。すると一年ぐらいで自分の性に合わなくなってきたので、密教の修行に入りました。それを初めはともいって思っただけで、やっていると、人間を束縛していくような、恐怖で人を縛るというか、これをこうしないと、こういう目に合うとか、因縁返しがあると、そういうのが出てきたもので、疑問を持ちまして、それでやめました。

### 米GAP本部とアリス・ウェルズ夫人の夢

#### ウエルズ夫人の夢

七七年の一月九日だったと思います。夢を見たんです。ベッドの上に寝ていたら急に体が軽くなっちゃったんです。意識が動いたというんでしょうか、体が壁の方に突き抜けたんです。そして目の前に見えてきた光景というのが、たぶんカリフォルニアだと思えますが、ヤシの木みたいな長い木があつて、家の中から、年とった品のいいお婆さんが出てきて、私に手招きするんです。そして私に黄金のメダルを見せてくれました。私は直感的に「この人は私をとて重要なるある男の人に紹介してくれる人だ」ということが夢の中でわかりました。黄金のコインがガラスのケースの中に入っているのが見えました。そのお婆さんは髪で、私をその家の中に入れてくれました。そこにガラスのコップがあつて、その中に白い液体が入っていました。それを飲んだら離れていて、バラか何かきれいなお花がいっぱい咲いていて、庭があったような記憶があります。(編者注①)

この光景を見て、私は最初、あら、これはロンドンの郊外のお屋敷かな、と思いい、ノートには夢日記にちゃんとつけてあります。そのあと私はすぐカリフォルニアに用事があつて、ハリウッドへ行きました。それは五月十三日の金曜日でした。そのとき仲の良かったハリウッドのプロデューサーやディレクターの人たちと一緒にすごしているうちに、なんだか波長がだんだん合わなくなりました。私はいつもイエス・キリストの話ばかりするわけです。精神的なこととか霊の話とかをするんですが、彼らは世俗的な話ばかりするからケンカしたわけです。

そのとき聞いた話ですが、イエスは三十歳まではヒマラヤやチベットをまわっていて、今でいう超能力を身につけていて、ほかにそんな予言者の人は何十人もいたんでしようが、イエスは実証してみせることができたから、あれだけ有名になったという話を聞いたりしました。

### 父君の死を予知する

私はカリフォルニアにいたときに、現実の世界と、自分がアーティストとして進みたい世界とのギャップをすごく感じ

たのですが、また、男に対してとても反感をもっちゃって、フェミニズムに目覚めたりして帰国したわけです。

帰る前に、私、友達に「うちの父は今年の秋に死ぬんだと思うわ」と言ったんだそうです。そしたら、帰って来てから本当にその秋に亡くなったんです。それは十月の五日の夜の十二時頃です。それならそのときちょうどテレビで「生命の科学」というのをやっています、ウサギの受精の顕微鏡写真が映し出されています。そのときに、ウサギでも父親と母親のおおの特性を持つ子供が生まれるとかなんとか言っていました。それで私は父と母から生まれたのかしら、とふと思ったんです。するとNHKの番組で日の丸が出てきて、それから父がお風呂に入ってから亡くなったんです。

これも、私には前もって父が死ぬことがわかっていたような気がします。外人の人のなかにはサギを働いて私からお金を取るうとする人が多いんです。それがよく夢の中で出てきて、そのため三回ほど事前に気がついて助かったことがあります。

この頃は数字がよく夢の中に出てきてそれが当たったりします。

今年の一月の十日に見た夢は、体がどこかほかの星に行っただんでしょう、体が少し浮くんです。今までは空は青いという観念をもっていたのですが、ブルーがピンクと混ざり合っただともきれいな空が見えて、はるか彼方に白い惑星が見えました。何だろうなと思ったんですが家の窓から明方に見ましたら、ちょうど

そんな青い空がピンクになってきて、金星が見えるんです。

次の日に会った人から「あなたは、はるか昔、五万年以上前に別な星から落ちて来たんじゃないか」と言われました。大昔、ムー大陸に生きていたとか、金星に縁があるんでよう、などと言われて、急にそんなことに興味を持ちだして、一年前に買った「UFOと宇宙」という雑誌を読んできましたら、GAPというのが眼についたので、なんとなくひらめいたんです。それで、まず会員になってみようと思って、お手紙を出したんです。

### 夢で久保田主宰者に会い、

#### 日舞の出演決定

その前に見た夢ですが、あるレストラで丸テーブルが沢山あって、パーティをやっている、黒ブチの眼鏡をかけた男の方と私が話しているんです。最初は黒沢明かと思ったんですが、写真を見ると違ふんです。あとでわかったんです、それは久保田先生なのです(笑)。

それで、私がいろいろ話したら、その眼鏡をかけた方が「ぜひやらないかい。頑張ってください」と夢の中で言うわけです。それで「あれ、この人だれかしら？」と思っていました。

それから会員になって、GAPのニューズレターが来たんです。そのとき私は「フェミニスト」誌から一人芝居をやってくれと頼まれたもんで、女の自立をテーマに自分で筋を作ったんです。束縛された女から自由な女へというテー

マで、ギリシャ劇のメディアアのモノローグを入れて演ったんですが、そのうちに、私はフェミニズムをやっているんだけど、なにか男と女が対立した状態を超えた、両者が本当の意味で調和した次元のものを演ったほうがいいんじゃないかと、出演前より思っていました。ですから出演した当日は自分でも満足できませんでした。そのとき、すでに、これから何か劇を創作するとしたら、フェミニズムといって女が男に対抗するとかなんとかよりも、人間としてもっと次元の高い劇を創作したいなと思ったのが、五月五日でした。

ところがGAPのニューズレターで、今年十一月に総会があることを知って、なんとなく、その総会のあとのパーティーで踊りでもおどればいいじゃないかしらと、ふと思って、ぶしつけだったかもしれないけど、久保田先生にお手紙を出したら、ちょうど先生も日本舞踊をやる人を探していらしたというので、ああこれは何かが導いたのでしょねと言って、そしてこちらへ入ってきたわけです(編者注②)。だからまだ三カ月ぐらしか皆さんと一緒になりません、なにかGAPは居心地がよいというか、とても自然な感じがするんです。自分をつくるわなくてもよいし、普通の所にいると、私なんか絶対に気違いだといわれるでしょう。一時ノイローゼになったとき精神病院へつれて行かれて脳波を調べたら、「この人は精神分裂症になる要素を持っているんです。あなたの過去に変な人はいませんか」と言われて、母が自殺する

ことまで思ったとか、いろいろあったんです。

モーゼの「十戒」を見る前に私はひどい病気になるりましたが、今考えるとノイローゼなんです。突然眠れなくなっちゃって、昼間ばかり寝ていたんです。まわりの人がすべて敵に見えたり、いつも私のことを悪く言っているように感じたりしたんです。あの頃は脳細胞が変化する時期で、それ以来不思議な事を体験するようになったわけなんです。

先生が病氣中、私もおかしくなっちゃったんです。気候のせいかもしれないませんが、それも今まで自分を酷使しすぎたために、「神さま」が「考えなさい」という機会を与えたのかと思って、家でジッと静養していたら、一昨日頃から急に手綱をとかれた馬みたいに元気がなくなっちゃって、何をやっても疲れないんです。だから健康というのは大切だなと思いました。これからも頑張りたいと思います。

#### 編者注

(1) カリフォルニア州の上品なお婆さんというのはアリス・ウェルズ夫人で、黄金のメダルは周知の法王ヨハネ二十三世がアダムスキーに贈ったものを意味するようだ。

(2) 今秋の総会直後の歓迎パーティーでアトラクションとして日本舞踊のショーを思いついた編者は、かねてから日舞の名手を探していた。すると衣笠さんが自発的に申し出られた。全くの偶然とは思えないこのあたりの不思議な事情は数名のGAP会員も知っている。

重力研究所長

清家新一

# 円盤の推進力



東大大学院在学中、アダムスキーの体験記に刺激されて反重力推進エンジンの開発に奮闘してきた筆者が、難解といわれる清家理論をだれにもわかるように平易に解説した珍しい記事。

まえがき

アダムスキーが金星人オーソンに会った時に、円盤の推進方法を尋ねると、小石を拾って、身振りで重力により動作することを示しました。また続いてのアダムスキーの著書「空飛ぶ円盤同乗記」でも、重力のコントロールが宇宙旅行にはぜひとも必要であると、ウラニデス（ブラザーズ）が語っています。

その重力の制御はエネルギーを電磁場でコントロールすることにより行うのです。どんな物質も軸性角運動量と極性角運動量を有しています。たとえば、軸性角運動量はいろいろの本にスピンのように紹介してあるものです。二種類のスピンのうち、後者の極性角運動量は、その向きがエネルギーの正・負に対応します。ベクトル（方向量）で示した時に、上向きであれば正エネルギーであり、下向きならば負エネルギーです。

エネルギーが負になりますと、アインシュタインの質量エネルギー公式によつて、その $C^2$ 分の一である質量が負となりますから、重力は通常の場合とは逆の方向に働きます（文献1）。つまり地球に反撥されるのです。地球の重力をコントロールすることはできませんが、自分自身（円盤のエンジン部）のエネルギーをマイナスにすると、地球がはじいてくれるわけです。これが反重力推進の根本原理です。

ところで、その電磁場による制御ですが、回転電場をウラニデスは用いているようです（以下、スペース・ブラザーズ

のことを「ウラニデス」と称します。これはヘルマン・オーベルト博士が最初に用いた呼称です。この回転電場はG・アダムスキーの円盤写真（写真1）にあ

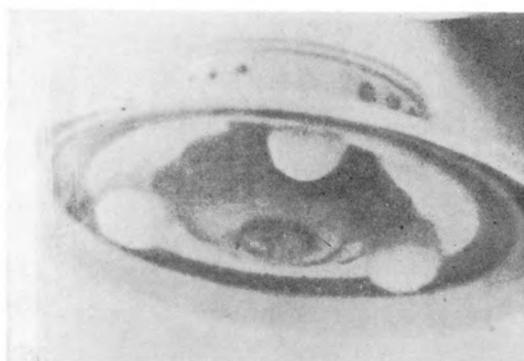


写真1

る三個の球型コンデンサーに三相交流を充放電することにより得られます。球型コンデンサーは写真に見える三個の球ですが、これは三回対称（百二十度対称）に置かれています（文献2）。

これらに三相交流を充放電しますと、球型コンデンサーの電荷は変動するので、幾何学的な位置と関連して、円盤の中心に回転電場を作り出します。第1図は同じくアダムスキーにより伝えられた金星円盤の図面です。その中心にある材料はフェライトであり、球型コンデンサー間の物質はチタン酸バリウムである

と考えられます。回転電場により、これらの物質が負エネルギーに落ち、地球にはじかれます。これがエンジンの中心部です。最近では球型コンデンサーもパワーコイルも半導体のものがよいということがわかってきましたので、そのように名称を変えてあります。パワーコイルやコンデンサーコイルは、私の著作「宇宙の四次元世界」や「空飛ぶ円盤製作法」（大陸書房刊）にもっとくわしく述べたのですが（文献3）、地球で一般に使用されているソレノイド巻きとは異なりま

す。アダムスキーが金星円盤に同乗した時の記述には「……この時、非常にかすかな唸り音を聴いたが、それは床下と円形壁の上部に装置してある大コイルから発するように思われた。唸り音が響きだした瞬間、このコイルが強烈な赤色に輝き始めたが、熱はないようである」と、パワーコイルについての記述があります。ソレノイドコイルに電流を流せば明らかに発熱します。赤冷するのは、ソレノイド巻きでないコイルが使用されているからでしょう。

そこで私はクライン巻と呼ばれる巻方のコイルを用います。これはメビウスの環やクラインの瓶（写真2）からきた名称です。メビウスの環は単側面（Single Sided Strip）と称される表裏の区別のない環であることは、多くの数学書に解説してあります。メビウスの環を幾何学的に翻訳した巻方は第2図のとおりです。なぜこのようになるかは更に第3図を見たと理解できます。

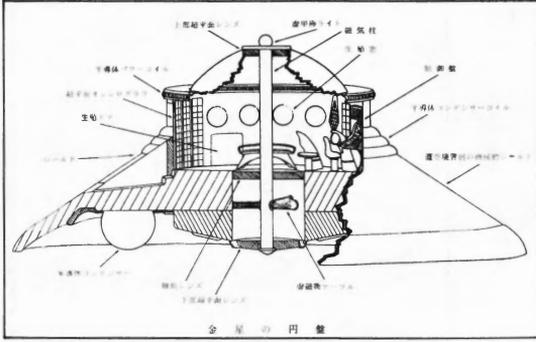


図1

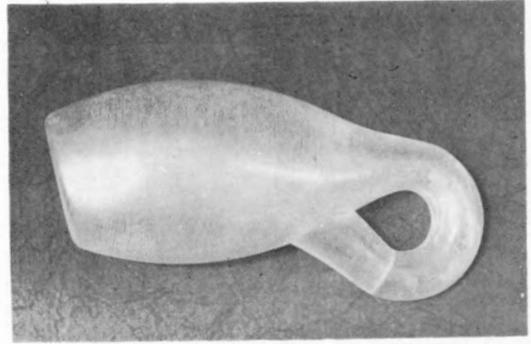


写真2

この巻方によって数々の効果を出したのですが(文献4)、その後、第4図のようなダブルソレノイドともいべき巻方が真のクライン巻であることが判明しました。メビウスの環の裏は、幾何学的に裏であるというより、物理的にまたは電磁的に裏であることが次第に判明し

てきました。第3図のように、メビウスの絶縁環に導線を巻きまします。すると、その環の性質に従って二周します。次に絶縁環を溶解し去ります。すると中段の図のように二周した導線が残ります。それを0点で切断し、上から来ている部分を右へくぐらせ、残りの部分を左へはねます。そうして右と左の環をつなぎます。そうすれば下段の図のごとくクライン巻が出来上がります。この思考操作(Gedanken Operation) ゲダンケン・オペラチオン)によって、メビウスの環とクライン巻の等価性を理解できます。「メビウ巻」といわないでクライン巻と称したのは、多数つなげてクラインの瓶を形成するということです。

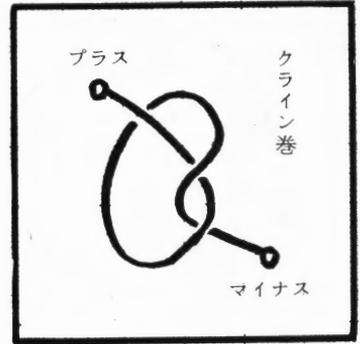


図2

ダブルソレノイドのプラスとマイナス(通常のソレノイドとは異なり、この巻方は出力端子が第5図のようにA、B、C及びDの四個ありますから、どれをプラスとしマイナスとするかをきめてかかればなりません。図中のチタン酸バリウムデイクや球型コンデンサーは、写真1にあるものを地球にある材料で実現したもので、デルタと呼称しています。球型コンデンサーの作る正三角形がデルタ形ですから、このように呼んでいるのです。また、UFOの推進原理は、相対

たのです。つまり電磁的に裏であるアース線をも伴いつつ巻かれたものです。この巻方をダブルソレノイドまたは「完全クライン巻」と呼称しています。

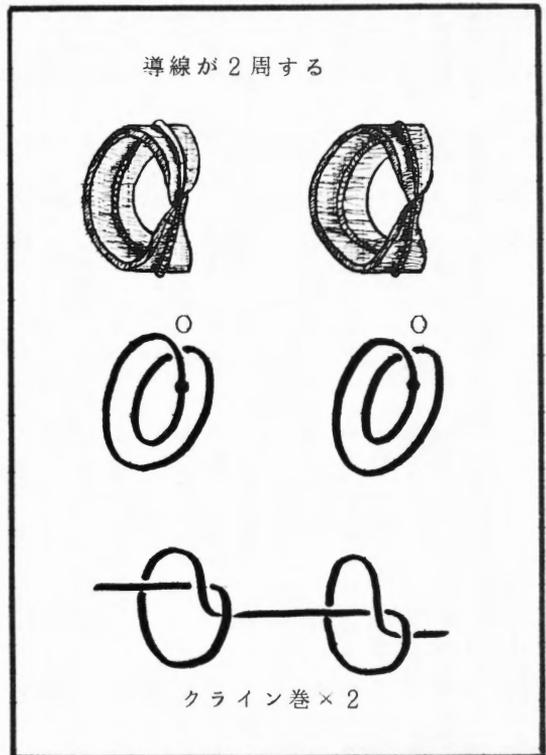


図3

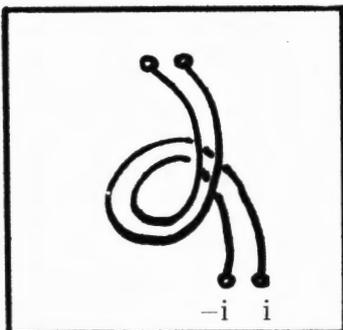


図4

性理論の応用ですから、これをRFO(Relativistic Flying Object 相対論的飛行体)と呼ぶことにします。このデルタの球型コンデンサーに次の条件の三相交流を充放電させて、

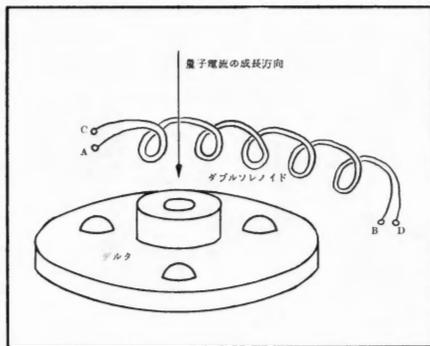


図5

高周波三相電流周波数	約一メガヘルツ
相間電圧	百ボルト

A、B、C及びDの端子をいろいろに選んで、出力電圧を測定します。そうしてその最も出力の大きい選び方を定めることにしましょう。ちなみに測定条件を次のようにします。

高周波電圧計	デリカモデル二	
ダブリソレノイド	七四巻	
(A) AとDを測定端子とした時、		
(A- $\alpha$ )	順方向	〇・一八ボルト
(A- $\beta$ )	逆方向	〇・一一ボルト

AとDの測り方で二通りの値が出るのは、デルタにエネルギー流が出来た時、それが重力に加速されるから、方向性が

出てくるのです。

(B) BとDを測定端子とした場合、		
(B- $\alpha$ )	順方向	一・七ボルト
(B- $\beta$ )	逆方向	一・三ボルト

この事実からBとDをプラス及びマイナスイオン端子としたほうが約十倍の出力が得られ、ベターであることがわかります。このように端子の選び方を定めておいて次のような三相発振器(円盤発振器)を作り、RFOの原理のとおり作動を確かめることができます。

**負エネルギー三相発振**

この発振器は時間がたつと次第にエネルギーが下がってゆきます。つまりマイナスイオンエネルギーに向かつて次第にエネルギーが下がります(文献5)。図面は第6図のとおりです。外形は次の写真3のとおりです。ダブリソレノイド三個

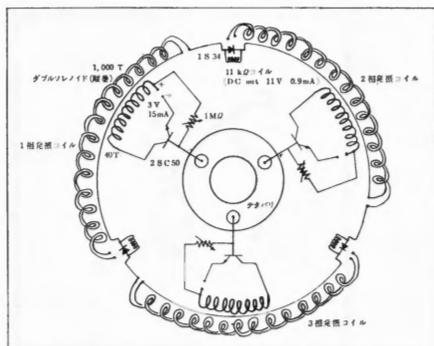


図6

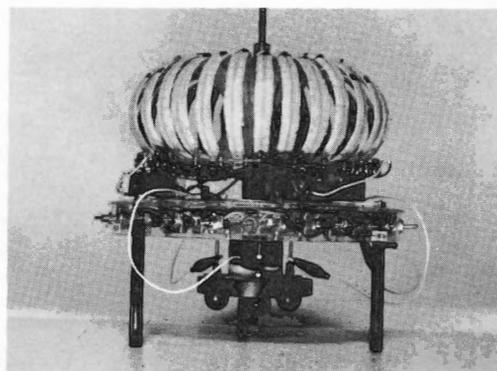


写真3

からなるコイルがパワーコイルです。これは三相発振器がRFO模型の中に組み込まれていて、高周波三相電流自体がRFOです。これはトランジスタ2SC50のコレクターから、ベースへのフィードバックコイルはないのに発振していて次第に周波数が下降するという特徴があります。次表のごとく三日後に約百分の一の周波数となりました。

スイッチオン	百十一、五九四キロヘルツ
七二時間後	一、五キロヘルツ

これを更に続けてゆきますと、やがて周波数は〇となり、次にはマイナスとなるはずですが、そうなりませんと量子のエネルギーはマイナスとなります。というのは、量子のエネルギーは周波数に比例す

ることがわかっているからです。この場合はかなりの時間がかかります。周波数の下降率が小さいからです。それにしてもマイナスイオンエネルギーの量子でもってRFOの周囲は満たされるようになり、それらは最初に説明したように地球にはじかれます(文献6)。つまり、推力が得られるわけです。

この図面を見れば、ダブリソレノイドは、最初に調べた最も能率のよい接続の仕方をしてるのがわかります。また、フィードバックコイルはありませんが、鉛直方向にエネルギーの流れがありますから、場としてはカップリングして発振しているのです。写真にある一番上のコイルは、図でいえば、外側を一周しているコイルは、パワーコイルです。パワーコイルは「自分自身で閉じていて、RFOの発振を助けるもの」ということであって、このようなものとなります。

**超光速粒子タキオン**

このようにエネルギーが下がってゆく場の量子は何でしょうか。通常の電磁波の量子である光子(ボトン)は、状態が励起されるとエネルギーは上がり、周波数は一定であるかむしろ上昇の可能性を有しています。それでは、その反対の性質を有する粒子はあるでしょうか?

G・フラインベルグ博士の提唱している「タキオン」(Tachyon)がこれに相当します。タキオンは超光速粒子であり、その静止質量に相当するものが虚数で示されます。これは超光速で、速度が更に上昇すればエネルギーも運動量も失

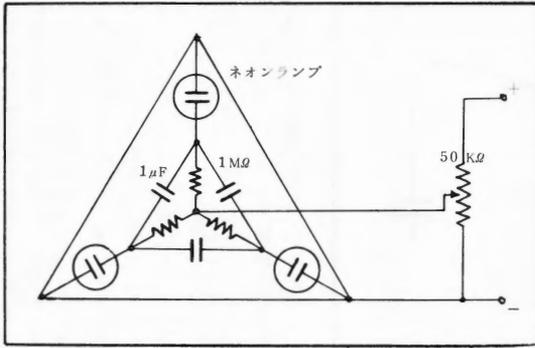


図7

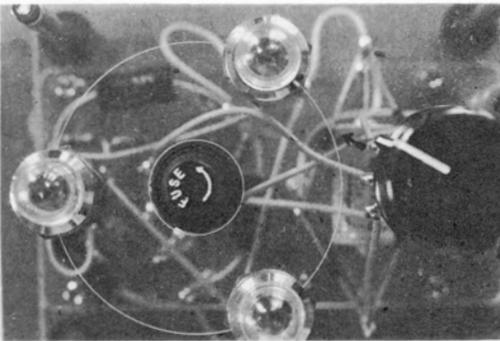


写真4

われます(文献7)。つまり励起されるとエネルギーは減少するのです。タキオンと通常の素粒子(実粒子)との相違を表にすれば次のとおりです。重

速度	光速以下	超光速
エネルギー	実数	虚数
質量	実数	虚数
実粒子	タキオン	

力空間にはタキオンが非常に多くあると考えられます。それが実験器の中に満ちてきたので、周波数が下がり、エネルギーが下がり始めたでしょう。RFOはタキオンエネルギーに依速して飛んでいるとも考えられます。

影山モデル

球型コンデンサーの回転を教育模型的に示すものとして、影山影氏の考案した「影山モデル」があります(文献8)。これは第7図のような抵抗とコンデンサー及びネオン球の組合せの回路であってネオン球が順番に点滅して回路を示します。RFO内の電場の回転は最初に述べたとおりですが、このようにして目で確かめることができます。実作したものは次の写真のような物です。これは市販のパーツで組み立てられますから、読者は実作されると一層理解を深めることができます。

重力電流は乾電池をも還元する  
負エネルギー発振器の項で、重力場のタキオンが混入すると、通常の電磁場と

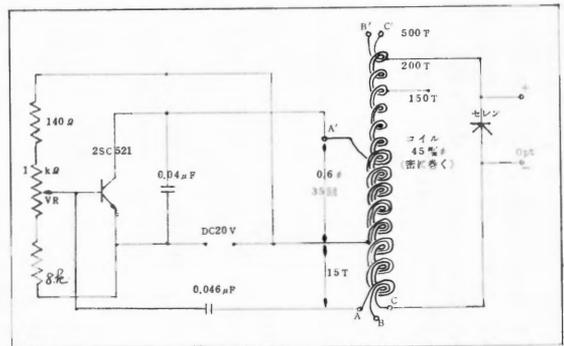


図8

異なる状態となることを見ました。この章では、また、別の顕著な性質をみることにします。

第8図のようなトリプルソレノイドの発振器を作成して、乾電池を充電してみたのです。つまり「完全クライン巻」で発振した高周波を整流して、乾電池を充電したわけです。古い単三乾電池を四個直列にしたものを充電しました。乾電池は周知のように商用電流を整流して充電しても還元しません。ところが次表のように約十分間の充電で還元したので。

初期電圧	五・四ボルト
十分後	五・九ボルト

一個あたりの終期電圧は

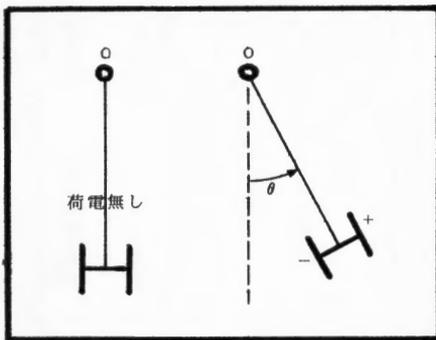


図9

ブラウン効果

重力落下の場合も、一度落下したものはそれ自身では元へもどりませんから、一種の非可逆過程です。重力を反転しようとする試みは、実は非可逆過程の可逆可逆です。「タキオン電流」を用いると、それができるわけです。

5.9 = 1.475 (ボルト)  
4  
であって、規格の一・五ボルトに近くなります。更に、非常に古い電池で〇・一ボルトぐらいい下がっている物でも、一・五ボルト以上に還元します。これはダブルソレノイド(またはトリプルソレノイド)で発振された高周波の中に、タキオンが混じっているからでしょう。乾電池の電圧低下のように、従来の方法では還元できないプロセスを非可逆過程といいます。非可逆過程の可逆化が起こったわけです。

簡単な方法で確実に重量の減少のみられる実験として、「バイフェルト・ブラウン効果」があります。

第9図のように、コンデンサーを水平に釣り下げて、充電します。充電していない時は、もちろん鉛直にぶら下がっています。ところが、充分に高圧で充電しますと正極の方へ押されます。つまり側方へふれるのです。また第10図のような実験が簡明にその性質を示します。

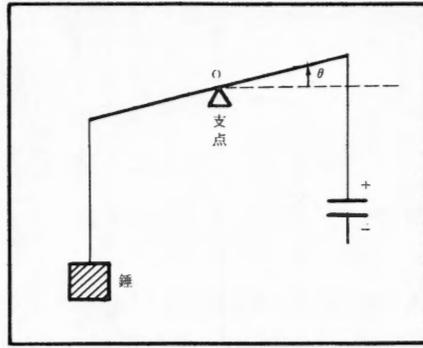


図10

コンデンサーを充電せぬ時に水平となるように天秤を調整しておきます。上の極板をプラスとして高圧充電すると軽くなり、錘りWが下がります。逆の場合は錘りWが上がります。

これは背景の時空のエーテルと、帯電されたコンデンサーとの相互作用で推力が生じたものです。重力制御の最も簡単なケースです。

空間に対して物質は陰極であるとウラニデスは語っています。

「宇宙空間のあらゆる天体は宇宙そのものに対して陰極になっており、いわば電磁力の海を泳いでいるようなもので、したがって、陰極の強烈な放射線は、他の陰極の物体に反撥し……」

とする空間が陽極です。このプラスとマイナスは、もちろん電気のそれとは別物です。しかし帯電することにより、物質の極性がわずかにどちらかへ偏ったとみられるでしょう。

この効果の大きさはトーマス・タウンゼント・ブラウン氏(アメリカ)の実験により、次の要因で定まることが判明しています。

- (1) 極板と極板の間が近いほど効果が大きい。
- (2) K因子と呼ばれる定数が大きいほど効果は大である(この定数は電場の歪エネルギーを貯える能力を示す)
- (3) 極板の面積の大きいほど効果は大きい。
- (4) 極板間にかかる電圧の大きいほど効果は大である。
- (5) 極板間の誘電体の量が多いほど効果は大である。

この効果は特許となっており、アメリカ特許の二九四九五〇号及び三一八七



写真5

二〇六号です。上の写真5が効果の発見者ブラウン氏です。

ブラウン氏の実験結果は、五万ポルトで一パーセントの重量減少を示しています。したがって百グラムのチタン酸バリウムディスクに極板をつけて、これだけの電圧をかけると、一グラムの重量変化があるわけです。

市販のトランスは一万ポルトくらいのが期待できるでしょうか？

これは五つの要因から誘電体の歪エネルギーによって効果が定まるようです。これは電圧の平方に比例します。つまり重量変化は電圧の平方に比例するはずです。すなわち、一万ポルトかけますと〇・〇四グラムの減少があるでしょう。残念ながら市販の秤りでは検知できません。

また、電圧を十倍にしますと、つまり五十万ポルトかけますと百倍の重量減少があります。百グラム分軽くなるわけですから、秤の目盛りはチタン酸バリウムディスクをのせて〇を示します(文献9)。

原子のエネルギー状態を決定する「極性角運動量」なる物理量があると、冒頭部分で説明しました。これは磁場がない時に電場の周囲を次図のように歳差運動します。物質の「電磁場相互作用定数」がマイナス(文献10)ですから、上向き電場をかけますと下半空間で旋回し、逆ならば逆です。下半空間に極性角運動量があることはエネルギーがマイナスという事です。地球にはじかれるのです(文献11)。つまり重量の減少があ

るわけです。

更に、半導体のコイルについて述べようとしたが、すでに紙数につきました。

以上、最近までの成果を数式をばいいて解説しました。数式になじんでいる方は数式のある方が理解に便でしょうから別掲の参考文献を読まれるのがベターです。このうち「超対称性理論」は重力研究所より直接に売り出しており、五千元(十二四〇円。合計五千二百四十円。切手不可)です。注文先は左記のとおり。千七九八 宇和島局私書箱三十三号 重力研究所

参考文献

- (1) 清家新一「宇宙の四次元世界」(大陸書房)一九七一、十九頁。
- (2) "「空飛ぶ円盤製作法」(〃)一九七五、十四頁。
- (3) " " 四十五頁。
- (4) " " 八十四頁。
- (5) " " 「円盤機開始動せり」(〃)一九七八、四十六頁。
- (6) " " 「超対称性理論」(五訂版)一九七八、百六十三頁。
- (7) " " 二百八十一頁。
- (8) " " 三百七十九頁。
- (9) Rho Sigma, Ether Technology, CSA Printing & Bindery (1977) p. 28.
- (10) " " (6)の六頁。
- (11) " " (6)の百九十七頁。

# 山つなみの襲ったあの夜— 動物たちは知っていた!

イタリア奥地のロンガローネの町を6分間で地上から消し去った恐怖の大惨事を事前に予知して脱出した動物たちのすばらしいテレパシー実話。1965年8月号「リーダーズダイジェスト」に掲載されたこの貴重な記事は、日本GAPの要請により特に本誌のために転載が許可された。日本及び米国のリーダーズダイジェスト社に感謝する次第である。

ゴードン・ギヤスキル

動物たちは知っていた、と世間の人は言っている。最後の日のそのおだやかな夕暮れどき——一九六三年十月九日の木曜日——に野うさぎたちは急に大胆になり、通行人も自動車ものともせず、無言のまま夢中になって、舗装道路を全速力で駆けて、その人造湖から離れていった。暗闇が迫まってくるにつれ、牝牛は牛小屋で不安そうにぐるぐる回り、犬はくんくん鳴き、鶏は鶏小屋でそわそわしていた。テレビを見ていたある夫婦者は籠のカナリアがただならぬ騒がしきで羽ばたきしている音にいらいらさせられた。やがてその羽ばたきが不意にやんだ。何だか訳のわからない恐怖に襲われてあわてくったカナリアは籠の棧に首を突っこみ、窒息して死んでしまったのである。夫は妻の顔をじっと見た。「何か起るんだよ! ひょっとしたらダムが?」

## 運命のわかれざわ

あと六日で結婚することになっていたある婚約者同士のあいだに、ちょっとした意見の食い違いが起こった。ジョバンナは二十キロほど離れたその土地の一番大きな町であるベルルーノの町へ映画を

見に行きたいと言ったが、許婚者のアントニオは疲れていたもので、言い訳をしてご免こうむらしてもらった。その一夜の二人は分かれ分かれになり、男はかなり高いところにある自分の家に残ったし、女は低地にある家へ帰った。男は翌朝ジョバンナも、その家族も、家も何も消え失せてしまった泥の原を掘り返しながらさいげんもなくこう繰返して言ったにちがいない。「もしぼくがジョバンナを映画に連れて行ってさえいたら……もしもぼくがジョバンナを映画に連れて行ってさえいたら」

十代の男の子がモーター・バイクにまたがったまま、窓から母親が女の子に会いに、ほかの村まで出かけるのをやめさせようと言いきかせているあいだ、まごついてもしもじしていた。ところが家の中から自分の若いころのことを思い出した父親が、「なあに、行かしてやれよ!」と大声で優しく言ってくれた。母親はため息をついて折れてしまい、男の子は安全な土地にバイクを走らせて行った——二度と家も両親も見られなくなることも知らずに。

イタリア系の三人のアメリカ人がロンガローネを見物に来て、三人とも低地に

あるささやかなホテルに泊まっていた。その中の一人でカリフォルニアのリバースイドの町から来ていたジョン・デ・ボナは自分の部屋に引きこもった——そして彼の姿は二度と見られないことになった。ニューヨーク州スカースデールの町から来ていたあとの二人、ロベルト・デ・ラツツエロ夫妻は、大叔母のエリザ

ベッタと二人のいとこに晩飯に招かれて、百五十段近い坂道の段をあえぎながら登って行った。十時ちょっと前、晩飯がすんだので夫婦が下のホテルまで歩いて帰ろうとしたとき、エリザベッタ大叔母が言った。「まだ帰らないで。ねえ、あんな方に特別のぶどう酒を一本しまつておいたのよ」幾らか気は進まなかったが、夫婦は少しのあいだ居残っていた。二人は運がよかったわけである。

なぜならロンガローネの町の時計はその晩はどれもこれも、決して十一時を打たなかったからである。その時間のくる直前に、ロンガローネの町とその近くに群らがついていた部落は全部地上からかき消され、二千人以上の人たちがおそらく世界で最も悲惨なダムの災害で死ぬ運命になっていからである。

(注) これまで当局にはっきりわかっているだけでも千九百七十七人の死者が出ているが、さらに二百人から三百人の人たちが死んでいるものと信じられている——そうなる最終的の死者の総数は、歴史上これに匹敵する唯一のダムの災害である一八九九年のベンシルベニア州ジョンズタウン川の氾濫の事件の死者の数(二千二百人)と驚くほど近いことになる。

## 恐るべき大ダム

四年前に新しく出来た大バーヨント・ダムは、オーストリアとの国境から南にそれほど離れていない亜高山地帯の町、ロンガローネ周辺に住む人たちの誇りにもなっていたし、同時に恐怖の種にもなっていた。近くのバーヨント山峽を埋めているこのダムは、あまり深く狭すぎ

るため、太陽の光がその底に触れるのは真昼のほんのつかのまに過ぎないほどなのだが、世界じゅうで最も高い所にある弓形のダムで、外国から訪ねてくる技師たちにたいして得意な見せ物になっていた。また、観光客を大いに引きつける名所にもなっていた。優雅な曲線を描いて次第に先が細くなっているそのコンクリートの壁は、基底から二百六十メートルの高さにそびえ立っていた——ナイヤガラ瀑布の五倍近い高さである。まだ満水になっていないが、十分に水を貯えたあかつきには、この湖水は膨大な量の電力を供給し、数キロ四方の山国の住民たちに産業や、作業や、繁栄をもたらすはずであった。でも多くの人たちはそのダムに恐怖心を抱いた。

### 人々は反対したのだが

一九五九年以来、このダムの建設に対する人々の抗議はますます大きくなる一方で、だれもかれも口をそろえて工事を中止するか、さもなければそれが安全だという絶対的な保証を与えてくれと要求した。しかし用地の使用はすでに認可され、すべての仕事はイタリアで最も尊敬されている数人の地質学者と技師たちの慎重な監督のもとに進められていた。その主任者はパーヨント計画の真の産みの親であるカルロ・セメント博士であった。この人はすでに数カ国でたくさんのダムを建設し、国際的に名の知れ渡った技術界の権威である。博士もそのほかの監督者も、はじめのうちはほとんどすべ

ての新設の人工湖の場合と同じように小さな地すべりぐらひは起こるかも知れないが、心配するほどのことは何もないと断定した。

近くに住んでいる人たちは、それほど大丈夫だとは思っていなかった。とりわけ、ダムの左肩を固定させながら新しい湖水の上に千二百二十メートル近くの高さでの上にかかっているトック山の安定性を疑っていた。彼らはその山に「歩く山」というあだ名をつけていたくらいだった。湖水の真上にあるエルト村の人たちは特に危険を感じ、初期の抗議の大半はその村人たちから持ち出されたものであった。

一九五六年に建設が開始され、一九六〇年三月にはすでに部分的に水を貯えるテストの準備がすべて終わった。その結果は厄介なことになった。一九六〇年十一月に控え目な量の水を貯えたただけ、もうトック山の高いところに愕然とするような裂け目が生じた——幅が三十七センチ余、長さが二千五百メートル近い亀裂である。同時に五十万トンの土と岩石が湖水の中になだれこみ、二メートル近い高波をかき立てた。

このダムを建設していた水力電気会社ソチエタ・アドリアティカ・ディ・エネツトリクタ（略してサーデ）は失望して湖水の位置を一段と下げ、予定を狂わせて、二年間にわたる金のかかるテスト作業にとりかかった。会社はまた広範囲にわたる改善工事を行った。ダムを強化し、大規模のパイパス・トンネルを掘り、岩石の亀裂の生じそうな疑いのある

ところは加圧コンクリートで密閉した。

ところが地すべりの前触れがあつてから六カ月とたたないうちに、セメント博士自身が希望を失い始めた、例の惨事のとどめで公表はされなかったが、一九六一年四月のある手紙の中で、博士はエンジニアの友人の一人にこう書いている——「この問題はおそらく私たちの手に負えないほど大き過ぎるようだし、何ら実際に役立つ対策の建てようがないのだ」博士はそれから半年たつて亡くなった。けれども博士といっしょに心配していたほかの人たちも、まさか人命に重大な危険があるなどとは夢にも考えていなかった。彼らの恐れていたことは、ただ盆地が貯水に役だたなくなるほどまで、地すべりでふさがれてしまいはしないかということだけであった。

サーデ会社の作ったダムおよび盆地全体の精巧な模型（実物の二百分の一）にたいする実験（第十九回目）は特に悲惨な結果をもたらすことになった。その実験の正式な報告書によれば、もしこの湖の水位を満水時より二十三メートル下に下げたならば、「予想しうるかぎりの最悪の地すべりをまともに受けても、絶対に安全」であろうということであった。ただし、そういう地すべりがもし起こったとしたら、湖上に二十五メートルほどの高さの危険な波をかき立てるだろう、ということもその報告書は述べている。

それに応ずる安全な対策は、明らかでないに思われた。もし地すべりがさし迫って起こりそうな場合は、(1)水位を満水時より少なくとも二十三メートル下げ、

### 危険になってきた

(2)予想される波が荒れ狂っても害を与えないように、湖畔地帯の住民を一人残さず避難させるということである。ダムの二千四百メートル下にあるロンガローネの町の人たちを心配する理由は何もない。湖水面をそうした「安全な高さ」にまで下げたら、おそらくダムを越す水はわずか一メートル半くらいの無害な小さな流れにしかならないだろうから。

一九六三年四月には新たに水位を上げるテストを実施する時期が熟したように思われた。そのときにはすでに新たな要素ができていた。サーデ会社およびそのほかたくさんの民間水力電気会社がエネル（エンテ・ナチョナーレ・ベル・レネルジーア・エレットリカ）と称する新設の国家電力委員会のもとに強制的に国有化されていた。排水門のせき止め弁は閉鎖され、再び水が注ぎこまれた。

水位が次第に高まってくるにつれて、例のがっかりさせられるような徴候が、いろいろ現れはじめた。トック山の高いところに、またぎょつとするような亀裂が生じたし、七月から九月にかけて、小さな地震が幾たびかその地方をゆすぶった。また地下の奥深くからどろくような妙なうなり声が聞こえたし、湖水の水は「ぐらぐら煮えたつ」ような不吉な騒ぎ方をした。

これより先にサーデ会社は山の側面數十カ所に見張り代わりの水準基準を建てておいた。髪の毛一筋ほどの動きの違い

さえとらえるほど感度の高い光学装置によつて、休みなしに見張られているその基標は、万一土がすべり落ちそうな気配をみせたら、どんなわずかな気配でもそれを信号で知らせるはずであり、また事実信号を送っていた。数カ月間異常を伝えなかつたその基標が、突然トク山山の側面の土がだんだん大きくすべり出す気配を見せたことを伝え、それが二十四時間ごとに……六……八……十二……二十……一ミリとますます大きくなり、ついに四十ミリという最高の「危険示度」まで上がった。それがそれより三年前最初の地すべりのさい記録された示度である。

エネルIIサーデ会社はあわてて、まだ満水時より十二メートル下になっていた水面を上げるテストを中止した。それで土が落ちつき、あらためて安定してくれるものと思ひこんでいた。残念ながら土は安定してくれなかつた。しかもさらに困つたことには、平年時の三倍という二十年來なかつたほどの降雨量のために、土が異常なほどまで、水びたしになつてしまつた。

エネルIIサーデ会社の技術面の指導主任代理ニーノ・A・ビアデーネに、そのときベネチアの本社から、たとえ許可されていてもこれ以上水位を上げるようなことは論外であると申し渡してきた。それどころか、もし危険信号があくまでつづいたなら、本社はさらに水位を下げる命令を出すつもりだと言つた。

事実信号はつづき、危険はますます、ひどくなつてきた。そこで九月二十六日——災害に先立つ十三日前——ビアデー

ネは「放水せよ！」という緊急命令を出した。直ちに壮大な排水門のバルブが開けられ、水は流れ落ちはじめた。しかし放水の速度は早すぎないようにと指定された。なぜなら、もし早すぎれば水のしみこんでいるトク山の土を支える落下水緩衝地がいち早く移動して、土をさらにいっそう不安定にしてしまうからである。経験と幾回かのテストの結果、「安全な」排水速度として、二十四時間に一メートル以上水位を下げないことに決めてあつた。この速度なら、第十九回目のテストで「絶対安全」の水位と発表されたところまで水位を下げるのに十日かかるはずである。

あわてさせられたのは、水位を下げて少しも安全性が加わらないことであつた。事実水位が下がっていくにつれ、水準基標の示す地すべりの危険はかえつて上がつていき……二十二……三十……三十六……、ついに十月三日には四十二……という前とおりの危険水準に達した。

### 警告を無視すれば

これこそひどいジレンマである——水位を高くしておくことは危険のようだし、それかといつて水位を下げてみてもやはり危険だつたからである。当事者側は放水はつづけるが、もつと速度をゆるめてやるといふ折衷策を取つた。以前は水準基標は屋のあいだししか読めなかつたが、

今ではその警告信号は非常に重大な影響があるので、大がかりな投射照明設備がもうけられて山腹全体を照らし、望遠反

射鏡をとりつづけたその示標は夜どおし読めるようになった。

十月八日の火曜日——災害の一日前——になると、状況は急速に悪化した。地すべりは今では二十四時間に百五十ミリまで上がり、なお上がりつづけていた。ビアデーネは猛烈な活躍に一日を過ごした。湖畔地区には隅から隅まで警告の通告が大急ぎで回され、その通告の中で市長は全住民にたいして、家族や家畜を引越させるため、同日午後四時にエネルIIサーデ社のトラックがたくさん来るから、それを利用して退去するように、とせつに勧告した。警官は退去を強制し始めた。

その夜ビアデーネは疲れはて、意気消沈してベネチアに戻つたが、湖水周辺の危険地帯から一人残らず住民は退去したものと確信していた。実際は二百人ほどの人が退去の警告を無視して警官の目をかすめ、その報に二十四時間とたたないうちに命を落とした。

そしてロンガローネの町はどうなつたのだらう？ ビアデーネがあとで証言したところによると、彼はそれまでダムの下、住民たちのことについては、少しも心配していなかつた。実物模型で行つた幾回かのテストは、一メートル半そこそこの無害な水しか、ダムからあふれてピアーベ川にこぼれ落ちないと証明してくれてではないか？

### 楽しい日だったのに

翌日ロンガローネの町はすばらしく楽

しい日であつた。農作物の収穫は大体すんでしまひ、その年の商売の景気はよく、新しい工場がぞくぞく建ちはじめていたし、ダム見物に来る観光客の数もますます増していったからである。なかでも一番商売で成功したのは、ロンガローネの有名なアイスクリーム製造業者たちで毎年三月にはうまいものをこしらえて売るために、ヨーロッパじゅうに散つていった彼らも、今は家族といっしょに冬を過ごすために、ぞくぞく家に帰つて来ていた。季節は帰郷や縁結びと結婚などの楽しい時期であり、クラブの役目をつとめるバー兼カフェで、古い友だちと会つたり、ぶどう酒を飲みかわしながら今期の商売の話をし合う楽しい時期でもあつた。

上にある大ダムが一種の暗い影を、その陽気なお祭り騒ぎに投げかけていたことは事実である。地すべりの率が今日は高くなつたというわさも、いつとはなしに漏れていた。アントニオ・サビというトラックの運転手はトク山の上の舗装道路をトラックで越えたが、道路がとでも湾曲してしまつたので、もう二度とそこを通るのはいやだと言つた。しかしそんなことは、今では珍しいことではなかつた。

数百人の男たちはその晩はいつもより遅くまでバー兼カフェでねばつていた。彼らは熱烈な蹴球ファンで、九時五十五分にスペインのリアル・マドリッド・チームと、スコットランドのグラスゴウ・レンジャーズとの大試合がマドリッドからテレビ放送で中継されるからで

あった。大半の人たちはどちらが勝つか知らないうちに命を落とす運命になっていた(スペイン・チームが六対零で勝った)。そして、あとでその試合はそれほど多勢の人を死に誘ったというので、ひどく恨まれた。実際は試合があつたら、なかつたからといって、べつに最終的な死亡者総数に大した違いはなかつたはずである。そのため死の運命に見舞われた人もあつたが、助かつた人もあつたのである。

### 赤信号ノ

一方トック山上の見張り代わりの水準基準は極端な数字を示し出していた。以前の四十ミリという危険表示度など、もう遠い過去のものとなつてしまつた。今ではどの信号もみんな百九十……二百ミリを表示しているではないか!

午後九時直前——災害のわずか百分足らず前——にベネチアのピアデーネは、ダムの下とロンガローネのあたりで、湖水の直接の周辺にすでに実施されてたのとおなじ警戒体制を敷いたほうが賢明だと腹を決め、ベルルーノの町にいる。下役の技師に電話して、ダムの下のすべての道路と、ロンガローネの町と周辺のすべての交通を警察に遮断してもらおうよう命じた。そしてダムからは、下のピアール川沿いの住民や、各事業所に——製材場にも、紡績工場にも、採石場にも、一軒ある居酒屋にも——つづげさまに電話をかけ、次のような言葉を伝えた。「ひよつとしたら今夜ダムから少し溢水する

かもしれない……あつては何かはないと思ひますが」

### すさまじい最後

午後十時三十九分に山は崩れた。山全体というわけではなかつたが、有史前からの時代を通じてヨーロッパでは見られなかつたほど大きな山塊が崩れ落ち、その震動があまり激しかったので、五カ国の外国の地震計に本物の地震に似かよつた震動を伝えた。約六億トンの山が崩れ落ちたのである——蹴球のグラウンドの大きさの地面に六十五キロの高さだけ土と岩石を積み上げたものに大体相当する量である。その崩れ方は予報されたように、一センチずつ落下しながら徐々に崩れてゆくような崩れ方ではなく、まるでナイフで立切つたように、山がすつぱり裂けて、まともに湖水の中に落下したのである。

カッソの村の司祭、ドン・カルロ・オーリニはたまたま湖水の真向かいにある山の上に立つてながめていた。ダムにとりつけた照明のまぶしいほど明るい光の中で司祭の目に映じたものは、「まるで地球の終わりが来たかと思われようような音を立てて」山腹が突然ぐらりとすべり落ちてゆく光景であつた。泥の洪水が司祭のほうに向かって飛び上がり、彼の目の真下で山腹のはがれて落下したかと思うと、洪水がまだ谷間に寄り返さないうちに教会も、低地に立っていた数軒の家も消え失せてゆくのが見えた。ものすごい、青白い閃光で空をみだしながら、

大がかりな二万ポルトの高圧線がショートし、ヒューズが飛び、山村をまっくら闇にしてしまつた。

湖畔の四方には厄介な水が先を争つて押し寄せ、水の高さは二十五メートルどころか、所によつては湖面より二百五十メートルも高くまき上がった。その水は轟音を立ててダムにぶつかったが、ダムは持ちこたえた。しかしその水は一メートル半どころか九十メートルほどの高さまでダムの上におおいかぶさり、二百五十メートル下にある山峡の底にどつと落下していった。山峡の底部では水はまるで強風に煙突の中へでも押しこめられたように圧縮され、その速度は恐ろしいほど増した。そして洪水は砲身から発射でもされたように、その低い山峡から跳び出し、数百万個のすごい岩石をすくい上げながら、広いピアール川の河床一面にほとばしり出た。その洪水に先立つて、不思議なほど冷たい風と、飛び散る水の嵐が雨のように押し寄せてきたが、その雨は上に向かって降り上がつていった。そのころには、すでに水は波以上のものとなり、洪水以上のものとなつていた。それは水と、泥と、岩石の大施風であり、それが青白い月光の中に百メートル以上の高さに逆巻きながら、まともにロンガローネの町に襲いかかつたのであつた。

次の数分間に——六分くらいだつた——泥水の洪水はロンガローネの町の立っている山腹のはるか上まで大音響を立てて跳ね上がり、やがて千五百メートルほどの幅の巨大な流しの水をあげた場合に聞こえるだらうと思われような、恐

ろしい吸い込みの音を立ててピアール川の谷間に逆流してきた。その六分のあいだにロンガローネの町は地上から消え去つたのである。

### 助かつた人もいた

生き残つた人たちのなかで、ほとんどだれ一人として——全然危険がないほど高い所からながめていた人たちでさえ——自分の目で見つたことを秩序立てて説明できる人はなかつた。ある人は思い出して、「私たちの町の上に大きな乳白色の雲が立ちこめていました」と言ひ、またある人は「ばかでない、灰色と銀色がかつた一つの塊りでしたが、それがとても大きくて、ちつとも動いているようには見えませんでした。そのうち、いろんなものが——人間の体も、木材も、自動車も——その塊りの中に、渦に巻きこまれるように吸いこまれていきました」と言つてゐる。たいがいの人々の覚えていたことは、不思議なほど冷たい風と、恐ろしい物音だけである。「それは急行列車が千台も私たちに向かって押し寄せて来るような音で……あまりひどいので、耳が受けつけようとしないうような音でした」と彼らは言つてゐる。

あるバーではだれかが「ダムが切れた! 命がけて逃げる!」とどなった。すぐくすばしい連中はうまく逃げおろした。老人や、驚きで頭がぼんやりした人たちは死んでしまつた。もう一軒のバーでは丘寄りの窓から飛び出した連中はうまく逃げおろしたが、入口のドアから

出た人たちは間に合わなかった。

マリヤ・テレザ・ガルーリという十二歳の若い女は、ちょうど自分の家のバルコニーのよろい戸を閉めようとしていたとき、たいへん冷たい風を肌と感じ、どうしたわけか家が自分のまわりで溶けていくように思われた瞬間、一つは風と、一つは水の何か大きな力ですくい上げられ、「あたし宙を飛んでいるんだわ……いや、歩いてるんだわ……いや、泳いでいるんだわ」とほんやり考えながら、ぐるぐる回されていった。百七十五メートルほど離れたところにいた老人のアルドイーノ・ブルリガーナと妻のジャンナは、一番上の階から洪水が一階に押し寄せてきて、何か黒ずんだ包み物を落としていくのをながめていた。その包み物がうめき声を立てた。それはショックで気を失ったマリヤ・テレザ・ガルーリで、打撲傷を受けていたが、ほかにほとんど怪我はなかった。

いすに身動きもできないでかいていた一人の中風の男は、あわてふためいて大声で妻に呼びかけた。「なんだ？ なんだ？ いったい何なんだ」妻は見てみようと思つてバルコニーに出ていった。男は何か大きな震動で家があった地震えるのを感じ、大きな声で「おまえ、どこにいるんだい？」と呼びかけた。妻の返事は二度と聞かれなかった。通り過ぎていった波のはしが妻をさらってしまったのである。

アメリカのスカーズデールの町から来て客となつていたアメリカ人の夫婦は特別上等のぶどう酒の一びんをあらかじめ

らにしたとき、轟音がとどろいた。いとこの一人がドアを押し開け、じつと外をながめて、またびしやりとドアを閉めて叫んだ。「わたしたち、みんなもうだめだわ！」水が一同の上に押し寄せてきた。夫は次のようなぼううつとした考えが頭をかすめたのを覚えていた。「三百メートルの深さの水をかぶつたのでは……もがいても何の役にも立つまい？」けれども奇跡的に、あつという間に水は引いていった。彼は助かったし、妻も二人のいとも助かった——ただし骨折は受けたが。しかしエリザベッタ大叔母はその水には勝てなかった。大叔母は倒れて死んでいた。

### 大惨事の跡

その惨劇がどれほど法外に大きいものであつたかということを外部の世界が知つたのは、しばらくたつてからのちのことである。洪水はロンガローネの町の海の面に孤立させてしまった。最初の報道員は午前二時三十分ころ、そこへ渡つて行つた。そして夜明けのかなり前にはイタリアの有名な山岳隊であるアルビーニの千人と、約一万人の救援隊の先発隊——軍人、警官、消防士、赤十字、ボーイ・スカウト、そのほか各種の篤志家たち——がやつて来た。

どんな筆達者なジャーナリストでも木曜日の日のもとにさらされた光景を記述する言葉を見つけたことはできなかった。「十六キロもつづく泥の棺……まるで旧約聖書に出てきそうな惨劇……人

家のないヒロシマまなぐら」ロンガローネ町内の三百軒以上の建物のなかで、まだ立っている家はわずかに十二、三軒くらいに過ぎなかった。妙にびかびか光る金属板が朝日を受けてきらめいていた——自動車の残がいである。荒れ狂つた砂いっぽい洪水が塗料をひとかけらも余さずに洗い流してしまつたのである。

ある五十五人の大家族のなかで、たつた一人の婦人だけが生き残つた。ほかに三十六人家族の家があつたが、そのなかでジャーチンタ・ビニャゴというおばあさんと、その孫息子のジャコモだけが生き残つた。おばあさんはその日一日じゅう泣きどおしていたが、自動機械のように、ほかの人たちを助ける仕事もつづけていた。

ある大家族のただ一人の生存者で無事だつた女は、両腕にやはり無事だつた赤ん坊をかかえて、兵隊から報道員のところへ、さらに司祭のところへと、だれのところへでも行つて、細い声で頼みこんだ。「あたしを殺してください。お願いだからあたしを殺してください」丘の上に住んでいる結婚した娘を訪ねていたために助かつたカルメラ・ブッテットというおばあさんは、丘から降りてみたら家も、夫も、息子も、その嫁も、三人の孫もいなくなつてしまつたことがわかつた。そのおばあさんはスプーンを一本みつけ、家があつたあたりだと思つるところを掘り始めた。だれもそのおばあさんをやめさせることはできなかった。

ロンガローネの町内では子供たちは六人に五人の割合で死んだ。残つた子供

の数があまり少なかったもので、政府が生き残つた子供たちはベルルーノの小学校に引取つてやるうとおだやかに申出たとき、ロンガローネの人たちは激しい声をそろえて、「おれたちは子供をここに置いておきたい——おれたちのすぐ目の前に！」と言つて拒絶した。一人の男の子は不思議そうな顔をして言った。「大人たちのそばを通ると、みんながぼくをほしそうな顔をしてじつと見るんだもの」

### 涙の遺品

捜し出す仕事と掘出す仕事は夜となく屋となく何週間もつづけられた。生き残つた人たちはたえず「ねえ、お願いだから気をつけて掘ってくださいね。私の母親がそこに埋まっているのだから」と頼みこんでいた。果てしもないほど、あとからあとと、さまざまなもの掘出されては涙を誘つた。金色の馬の飾りのついた黄色い花びんが現れたとき、近所の人の一人が涙を流した。「あの奥さんはとてもこれを自慢していたのよ。いつも自分の子供たちが、これをこわしやしないかと心配していたんです」結婚の記念写真……「ソレントみやげ」という字が読める木の箱……ねじ曲がつた自動車。だれかが水びたしになつた手紙を捜し出して、それを読んでいたが、やがて急にヒステリックに笑い出しながら、大きな声でその結びの文句を読み上げた——「こんど手紙をくださるときには、ロンガローネの町でどんなことが起こつたか知らしてください」

## 大救援活動

あとからあとからとわかってくるおびただしい死亡者の数と匹敵するほどたくさんさんの同情と援助の手が、イタリア全国からつきつきとさしのべられてきた。イタリア人のなかでは、だれ一人としてその惨劇が自分の責任であると認める人はいなかったが、一方では、とにかくイタリア人全部が責任を感じているようであった。全国のラジオ、テレビ網は「ロンガローネを再建しよう」という募金運動を展開し、それで十三億五千万リラ（七億八千三百万円）の金が集まった。ミラノの有名な新聞「コルリエーレ・デルラ・セーラ」は読者から十二億千八百八十一万九千七百四十五リラ（七億六百九十一万五千円）という驚くべき巨額の金を集めた。最も被害のひどかった生存者たちには貯金勘定、あるいは全部現金の下付金（一家族につき三百万リラ、つまり百七十四万円まで）が与えられ、未亡人や孤児を助けるためには信託資金が設けられた。イタリア政府はこれまでに百二十億リラ（六十九億六千万円）の資金を支出し、道路、鉄道、橋梁、上下水道の再建を行ったり、埋没した民家、商店、工場をもと通りに建ててやったり、ロンガローネの町が復興するまで、イタリア各地に散らばっている数千人の避難民の生活費をまかなったりしている。

このニュースは全世界に恐慌を巻き起こし、援助の手をさしのべさせた。オーストラリアからカナダにいたるまでのイ

タリア人社会の多くは——ときにはイタリア語の地方紙の提唱のもとに——金を送って来た。ロンガローネ生まれで、故郷の家族のほとんど全部を失った五十八歳のジェームズ・ベーツというコネチカット州スタンフォードの一失業労働者は、自分一人の力で三百五十ドル（十二万六千円）の現金と衣類四十箱を集め、それをギリシャのある船会社が無償でイタリアまで運んでくれた。

## 人間は自然を無視する

私は最近のある日、このダムと何の関係もない一人の技師といっしょに、まだ再建中の泥だらけの山道を登って、あの恐ろしかった夜、山の崩れるのを向かい側の山から目撃した司祭の住んでいるカッソの村まで行ってみた。湖水より二百五十メートル高い所にあるその村からながめると、私たちの目の前には現場の全容が展開していた。

私たちの右手の下には、上部にわずかの損傷を受けているほか無傷の大ダムが横たわっている。すぐ真下には地すべりした巨大な山塊が、まだ樹木も灌木も生えたままだ、まるで昔からそこにあったかのように立ち、すでに新しい呼び名でモンテ・ヌオーボ——「新山」と呼ばれていた。その新山は実際には土と岩石で二千四百メートルほどの深さに埋まっている自然に出来た新しいダムのようなもので、それがまるでどのダムのようなものをこぞくような格好をして、いまは永久に役に立たなくなった人間の作ったダム

より九十メートルも高くそびえ立っている。

湖水は前の大きさの約半分に縮んでい

る。しかしイタリアはまもなく手に入れられるかぎりの電力が必要になるので、もう少し時間がたつて恐怖心と住民の感情が冷静になったころ、貴重な貯水用として湖水の残りをつづけて使用する何か絶対に安全な方法が発見されるかもしれないという暗々裏の希望はあるのである。

私たちがカッソの村から見おろしていたとき、私の友人の技師はパイプの柄でいまもお堂々としている人間の作ったその大ダムを指し示して言った。「現代では人間は大体一〇〇パーセントまで応力とひずみを計算することができるといふことはこのダムが証明しているとおります。しかしどんな最高の技術陣が、どんな最高の装置を使っても、地球の奥深くに起こることを絶対確実に知ることができないのです。現在では機械工学は大体正確な学問となっています。しかし地質学はそうじゃないのです——いまのところはまだそうならないのです」

## 編者付記

この大惨事は日本ではほとんど知られていないが、当時ヨーロッパ中の耳目を集めて人々を恐怖させた。特に動物たちが事前に異変を感じて脱出したり騒いだりした事実は人々の語り草となった。日本でもこれに似たような現象はあつ

た。一九五九年九月二十六日、愛知、岐阜、三重を襲った史上最大級の伊勢湾台風は、死者と行方不明者数が五千一百一人に達し、家屋の全壊・流出数約四万戸という恐るべき大被害をもたらした。ロンガローネをはるかにうまわる大事件なのに、これまた海外ではほとんど知られていないし、どういわけか国内でも知る人は少ない。

この超巨大台風が来る前日は平穏そのもので、これほどの大災害が発生するとは夢想もできない快適な日であった。

ところが、名古屋動物園の禽舎にいた小鳥たちは、すでに大異変をキャッチしていた。ふだんならば止まり木にとまっていたはずなのに、その日に限って多くの鳥たちが地面に降りて、羽をばたつかせながら騒いでいるのを、不思議に思いながら見つめていた当時の園長が、後日回想記を文芸春秋の随筆欄に書いておられた。

大正十二年の関東大震災の前日には、当時まだきれいだった都内の神田川から多数のウナギがいっせいに顔を出したというし、明治天皇の愛馬のナントカ号は、天皇を乗せて、腐った危険な橋の前まで来たら動かなくなったというが、これは少々伝説くさい。

しかし動物が人智の及ばぬ、すばらしいテレパシクな予知能力を持っている事実は否定できない。気づかぬのは人間さまでだけというのは情けないが、動物を見習う以外に方法はあるまい。動物やその他の生物を観察しながら大自然とともに生きるような生活法が大切なのだ。

## 亀田一弘先生の思い出

大透視能力者として著名だった亀田先生は、去る二月下旬にガンのため逝去された。つづしんで哀悼の意を表する次第である。

先生は特に日本GAPに親近感をお寄せになり、「超能力開発法」と題する講座を本誌のために自発的に執筆して下さって、その第一回を65号に掲載したばかりなので、先生の他界は惜しみてもありある。先生が寄せられたほう大な未発表原稿が編者(久保田)の手元にあるが、これは一本にまとめて機会あれば単行本で上梓したい。したがって本誌での連載は第一回のみで一応打ち切ることにするので予承されたい。

編者が亀田先生を知るに至った経過は本誌56号に述べたが、すでに品切れ絶版になったので、新しい会員の方々のために再度お伝えすると――

五〇六年前、当時出版屋をやっていた編者は会社からの帰途、地元の駅に降りて、ときたま駅前小さな書店に寄り、雑誌の売れ行き状況や、その他の語学、写真関係の図書雑誌をざっと見て店を出るのが常であった。

ところが、かねてから自分自身が大超能力者になったイメージを描いていた編者は、ある日、その書店に入ってから、ふだんは見向きもしない左側の棚の方へなぜか体が移動した。そして料理、手芸、マーチャン、囲碁など、編者には無縁の

図書の山の前を通過するうちに、ある場所まで体がビタリと停止した。ひょいと眼前を見ると「透視入門」(虹有社)と題する小型本が一冊埋もれている。手に取ってパラパラめくったとたん、「これだっ!」と思い、すぐに購入し、その夜眠らずに読みふけた。本物だと感じたのである。

文中に「塩谷博士」なる方が登場するので、古くからGAPを応援して頂いている九大名誉教授の塩谷勉先生のことかと思ひ、電話でお尋ねすると、それは兄のことではないかと言われる。令兄の塩谷信男医博のことなのだ。この先生にも古くからご支持を頂いている因縁浅からぬ方である。電話で質問すると明快なご返事が返ってきた。

「ああ、亀田先生ね、私は門人でした。あの超能力は本物ですわね!」

こうして傍証を得た編者は早速亀田先生にお会いして、その驚異的な力に舌を巻き、以後、親交が深まったのである。

編者が日本橋浜町の先生の事務所を訪問した回数は定かでないが、三日にあげずというようなものではなかった。しかし、いつお訪ねしても実にきざく、態度で迎えて下さり、構えたところは全くなかった。下町の好々爺というタイプである。だが事務室の隅にはいつも書物が山積し、正規の教育を受けなかった先生が猛烈に努力された跡が歴然としていた。大変な読書家で、博学多識、今古東西の宗教や哲学に通じ、晩年はアダムスキーも研究されたが、先生の持論は遺伝と大脳の開発にあり、A氏の哲学とは若干相

違っていた。

透視能力はたいしたもの、まず依頼人の顔をじつと凝視して、顔の表面に係者の顔が次々と浮かび上がるのが見えるらしく、その人相や位置などによってこの人間はこうだ、この人間はああだ、などとリーディングをされる。しかも似顔絵まで描かれるが、それは驚くほどの中した。

編者は多くの質問を試みた。一身上の問題や大地震発生の場所と時期、仕事の将来のことなど。他人から依頼されて質問を取り次ぐこともあった。未来予知はたまに外れることもあり、その中率は八十パーセント程度だったらしい。しかし現在透視力は驚嘆すべきもので、しばしば私を唖らせた。あるとき一枚のグループ写真を持参して見せたところ先生は即座にその中の二人を指さして、この二人は悪党だから気をつけろ、特にBよりもAが悪質だ、と明言されたが、これは間違いないことが後日判明した。写真の場合は透視というよりも人相で判断されるらしい。先生にとって未知の人物でも氏名と年齢を聞くだけで透視できるらしく、当時編者とかかわりのあったある人のことを尋ねると、「人格最劣等。破壊的性格を持つひどい人物で、こんな者とは早く縁を切るほうがよい」ということだった。あまりにすごい透視なので、これは当方の想念を読み取った一種のテレパシーなのではないかと思っただけである。

歯に衣着せずスバズバと話される先生の言葉は明快そのもので、しかも八十

歳の老人とは思えぬほど饒舌としておられた。一方、実に謙虚な方で、息子のようになら私に対して「久保田先生」と呼ばれるのには閉口し、身の縮む思いがした。

過去五十年にわたり、十数万人の透視をしてこられた先生が晩年に洩らされた言葉を忘れることはできない。

「ずいぶん多くの人に接してきましたが日本GAPの会員の方々が精神的に最高でした。GAPというのは非常に特殊な人々の集団ですね!」

これについては本誌65号の先生の記事の冒頭にも同じ意味のことが述べてあるので先刻ご承知のことと思う。

つきつめれば、アダムスキーの宇宙的哲学は他の宗教や哲学とは全く次元の異なるものであり、これに傾倒する人々もカルマや次元が一般人とはまるで違うということなのだろう。このことを宣伝文句にするつもりは毛頭ないが、世界的な大超能力者の残された言葉として銘記すべきだと思ふ。

葬式に行けなかつた編者は三月二日、単身で弔問に参上した。意外に簡素な祭壇の前で奥さまは落ち着いて、ときに微笑を浮かべながら最後の模様を話されたが、編者は悲痛な思いにかられ、退院後は快復されたものばかり思っていた身の不明を恥じた。

しかしおそらく先生は進化した惑星に転生され、地球のことを思い出して、つぶやいておられるだろう。

「つまらぬ世界だったが、自分を支持してくれた人たちは何人かいたなア。いつか宇宙船で行って援助してやろう!」

# 科学と 人間愛と 信念

久保田八郎



この記事は本年五月二十七日に仙台市民会館で開催された日本GAP仙台支部総会における編者の講演原稿を加筆修正したものである。右のタイトルのバック

写真は松島のパノラマライン展望台にて会員・赤間昭夫氏が撮影。左より妹さんの赤間節子、太田輝男、山口緑、編者、佐藤和枝、柴田文子の各氏。

無理がたたって四月五日ついに発病してしまいました。風邪をひいたらしくて、ひどい悪寒がするので翌日も寝込んでいましたが、かなりの熱が出ています。急性気管支炎と思われたため、家人に漢方薬と湿布薬を買ってきてもらって手当てをしたところ、七日の朝は熱が下がって楽になりました。そのまま安静にしていればよかったのに、たまたま郵便物を放置しておくわけにはゆきませんから、また起き上がった書齋で一日仕事をしたのがわるかったようで、その夜また発熱したので、薬を飲み、湿布をすると九日には熱が下がり、ふたたび楽になったため、また起きて一日中仕事をしました。

大体、GAP活動というのは「郵便物との闘い」といってもよいほどでして、それほどにこの処理に迫られます。殺到する郵便物を数日間放置すると、たちまち山積して手がつけれなくなり、毎日少しでも処理しないとだめなのです。

**賢者だけを探せ!**

すると九日の夜、今度は相当な高熱が出て息苦しくなり、終夜うなりどおしという状態になりました。少年の頃に肺炎をやって九死に一生を得たことのある私は、症状からみて肺炎と断定し、抗生物質の注射の必要を感じて、往診をしてくれる病院を家人に電話で探させましたがなかなかみつかりません。東京都内の病院はふうつう往診をしないんです。この点

は田舎のほうが便利です。

数軒の病院からことわられて、やっと往診してくれそうな医院をみつけた家人が、電話を切ってからひどくこぼしています。応待に出た院長が横柄きわまりない態度で「救急患者が来たばかりだ。行けるものか」とケンカ腰の口調で怒鳴り、その前に出た看護婦も「この病院に一度でもかかったことあるの？」とヒステリックになってわめき散らしたということです。

「賢者だけを探せ」と家人を叱咤激励したいところですが、呼吸困難で声が出ません。

そのうちマンションの管理人さんのアドバイスにより、救急車を呼んで、どこかの病院へ運んでもらうほうが手取り早いということになり、消防署へ電話をかけますと、車がすつ飛んできました。外国では救急車を頼むと金を取る所が多いのですが、日本は無料ですから有難い国です。

救急車の人たちは実に親切で、しかも病人の取り扱いに熟練しているものから、大男の私を三人がかりで丁寧に担架に乗せて毛布でくるみ、車に乗せて、ある総合病院へ運んでくれました。

病院へ着いたら、苦しくて立ってられない私をいきなり立たせてレントゲン写真を撮りました。口ヒゲを生やして黒ぶちの眼鏡をかけた丸顔の技師の気の毒そうな表情をした顔が、眼前にニューッと現れたのを覚えていて、あとは記憶がありません。気がついたら病室のベッドに横たわっていました。意識朦朧

たる状態だったのでしよう。

しかし、しばらくして少しづつ周囲の状況を知覚できるようになり、気分が落ちついてきました。やがて担当の医師が来て、レントゲンの結果、たいしたことはない、心配するほどのことはないよと話されましたので、私も安心したのですが、治療のことを尋ねると、点滴と抗生物質の注射をするということでした。

昔は肺炎で死ぬ人が多かったのですが一九二九年にイギリスのフレミングによって、ある種のカビの作る物質がブドウ球菌の発育を抑制することが発見されて以来、ペニシリンと名付けられたこの抗生物質が四〇年代に急速に化学療法剤として発達してから、ほとんどあらゆる細菌性疾患に應用されるようになったために、肺炎などはよほどの手遅れにならない限り、これを注射すれば治るのです。第二次大戦中、アメリカではこれが大量に生産され、イギリスでは宰相のチャーチルの肺炎がペニシリンにより三日間で治ったという有名な話がありました。全く科学の勝利といってよいでしょう。

### 奇妙な体験

私の場合はミノマイシンというテトラサイクリン系の抗生物質（合成ペニシリンではない。正式にはミノサイクリンという）を注射したんですが、やはり三日間で熱が下がって楽になりました。

しかし、それにしても、よくなるのが早すぎるというわけで先生が不思議がつて、もう一度レントゲンを撮るからレン

トゲン室へ来いと言います。レントゲンは有害な放射線ですから、たびたびこれにかかるとは好ましいことではなく、しかも絶対安静を要する肺炎患者に、入院四日目で四階から一階まで降ろさせるといふのは少々無茶ではないかと思ひ、私は降りないぞと拒否したのですけれども看護婦さんがしきりに催促に来るものから、仕方なく車椅子に乗せられてレントゲンを撮った結果、やはり大きな変化がみられたということでした。

入院前、家で寝ていたとき、夜間は熱のため眠れなかつたんですが、スペース・ブラザーズには送信を続けていました。私はふだんスペース・ブラザーズにテレパシーで送信するのが一種のクセになつてゐるんです。

入院の前夜、自宅で仰向けになつて眼をつむっていますと、暗黒の視野の中に一人の白い人影が右手に現れて、それが中心部へ向かつておじぎをしたとたん、私の上半身にガタンと大きなショックが起こつて、ハッとしました。

入院してから高熱の続いた三日目の夜だったでしょうか、やはり暗黒の視界の中に、突然、小さな箱が現れたんです。径一センチほどのその四角な箱の中に、

一個の白い米粒か真珠みたいな物があつて、それが光っています。すると箱は次第にゆっくりと私の方へ接近して来るんですが、それにつれて白い玉が箱の中から出て来て大きくなり、しかも形が変化して一種の機械のようになりました。ちょうど大型カメラの蛇腹フードみたいなもので、その機械が私の胸の上方三十セ

ンチほどの位置まで来てからびたりと止まり、先端の開口部が胸に向けられたとたん、またも上半身にガタンと大きなショックを感じて、アッと驚いたんですがべつに痛みはありませんでした。以上のいづれも夢ではなく覚醒時の体験です。その他、同室の他の患者のテレビに考えられないような異変が起こつたり、いろいろと奇妙な事がありました。

### 人間愛は自然の観察から

入院して痛感したのは、医師団や看護婦さんたちが実によく働くということですが、もちろん他の職種にも勤勉な人は沢山いますが、ここには少なくとも自分の労働力を時間で切り売りしようという雰囲気はありません。なんとかして病人を救おうという意欲に燃えているようで、特に看護学校から来ていた十七〜八歳の少女の実習生たちの献身的な活動ぶりはときとして感動的でした。

病院というものの実態には素人の私たちに理解しがたい複雑なものがあるのでしようが、それは二次的な問題です。現実において他人を救えばよいのです。したがって最も重要なのは科学と人間愛の二つであつて、これが認識されて世界がこの方向に動くようになれば、地球もずいぶんよくなると思うんです。簡単なことなのに、なにか人間は物事を複雑にして、かえつて退化している面もあるようですね。少なくとも、いかなる宗教の教義や哲学の理論などを振り回しても、苦しんでいる病人たちの前ではむなしく響



中世イタリアの哲学者ブルーノなどの例がそうです。

宗教団体間の争いの原因となるものに醜悪な権力闘争と、それに語義の解釈の問題があります。前者はいかなる社会でもつきものですが、後者は全く無意味です。およそコトバによるコトバをめぐる論争ほどバカらしいものではありません。神とか生命とかをコトバで理解しようとするのがどくだい無理な話で、その無理をあえてやっているのが宗教ですから、論争が起るのも当然です。

どうすれば生命というものを理解できるか？ 方法は非常に簡単です。自然界の生命体を観察すればよろしい。複雑精緻をきわめた人体をはじめとして、小鳥や草花など、人間の手で絶対に作れない小さな生命体を観察して、限りない驚異と神秘感に打たれればよい。これだけであとは何も必要ありません。

薄暗い教会の気味わるい十字架の前でひざまずいたり、金属製の仏像の前でわけのわからぬ経文を唱えたりするのは、ブルーノを焼き殺した時代の偶像崇拜と本質的に異なってはいません。

ロケットが別な惑星へ行くというこの宇宙時代にこんな原始的な振舞いはすべからずやめて、

「さあ、皆さん、野に出よう。生きた実体を見よう。可愛い小鳥のさえずりを聴き、名もなき可憐な草花を観察して、宇宙の創造パワーと英知とを感じよう。そしてそのパワーすなわち宇宙の意識という手に支えられた小鳥や草花とテレパシーで語り合おうではありませんか！」

というのが私たちの提唱するアダムスキー哲学であり、これこそゾズミックマン（宇宙的人間）になるための基本的な方法だと言っているわけです。このようにしないことには生命の尊厳さを理解できませんし、自己のフィーリングも向上しないでしょう。

### “天使”の小鳥に教えられる

これはある出版社の編集長K氏から直接聞いた話です。氏は若い頃ハンティングの趣味を持ち、猟銃をかついで山野を歩いては鳥やケモノを撃っていた方なのです。

そのK氏があるとき山中で銃をかまえて遠くの獲物を狙っていたところ、突然メジロが一羽飛んで来て、銃口のすぐ前の小枝にとまり、可愛い顔をこちらへ向けてジッと見つめたというのです。

このときK氏は電撃を受けたようなショックを感じて、「ああ、悪かった！許してくれ！」と大悟されました。そしてそれ以来、銃を捨てたのです。

「生き物を殺すのはやめなさい」と、そのメジロが教えてくれたようなもので、今でもあの天使のような小鳥の可愛い顔を思い出せば涙が出てしょうがないということでした。

ここで、ポイントは、宗教の教義などを百万だら聞かされるよりも、一羽の小鳥が宇宙的な愛を教えてくれるので、これが人間愛を高揚させるための真の生きた方法だといえるでしょう。だからコトバよりも自然の観察が重要です。

### 松尾氏のすばらしい透視

私たちは宗教との対立運動を起こそうとしているのでもなければ動物愛護運動の首領をとっているのでもありません。自分自身をなんとかして次元の高い位置に引き上げようとしているだけです、それを行うには基本的に言って自分自身の理解力とフィーリングに頼る以外、道はないですね。他人が自分に代わってやってくれないからです。そして宇宙的なフィーリングを高めるのに、心の推理のみにまかせるわけにはゆきません。もつと内奥に潜在する「宇宙的な囁き」すなわち「宇宙の意識からの指令」に心の耳をかたむけさせて、聴き取る必要があります。それは一種の声なき声、または印象として浮かび上がってくることもあれば、映像として現れることもあり得ます。自分や他人の過去世もわかるようになるでしょう。

これを実践して超能力を開発し（超能力という言葉は好ましくありませんが）過去世や未来透視をされる方が日本GAP内に何人かいらっしゃいますけれども顕著なのは日本GAP岐阜支部代表の松尾和也氏です。小川に落ち込んだ私を金星人オーソン氏が救出する光景を透視されたこともあり（注11本号掲載の同氏の記事「永遠の生命を得るには」を参照）。

また本年三月には昼間、仕事の合間に氏が休息していると、突然「霊柩車」の光景が見えたので、不思議に思っていた

くだけです。

科学と宗教は次元が違うのであるから混同するなという反論が出るかもしれませんが。しかし宇宙哲学的に言えば、「だから地球はだめなのだ」ということになります。ここで宗教というのは団体化した既成宗教を意味するのであって、イエスや釈尊のコトバそのものを指すものではありません。こうした偉大な教師のコトバはもともとと宗教の教義ではなくて一種の宇宙哲学であり、人間の宇宙志向のための指針となるべきものでしたが、後世にひどくゆがめられてしまい、低次元な信徒たちによって、逆に一般大衆の宇宙志向は阻害されました。地動説となえたために宗教裁判により火刑に処せられた

ところ、夕方から息子さんが発熱して苦しみ出したので、手当てをしたけれども悪化する一方となり、奥さんは一夜介抱して明日病院へつれて行ったらと言われなければならない、氏は「霊柩車」の透視のことを思い出して、今夜中に医師の手当てを受けなければ死ぬという予感がし、かたっぱしから救急病院を探して、ついに夜の十一時半頃に一軒の救急病院をみつめて治療を受けた結果、息子さんの急性肺炎が治って危険を脱したということでした。これも意識から来る警告が映像となつて見えたということでしょうね。

### スペース・ブラザーズは 宗教を問題にしない

こうしたテイチングはアダムスキー独特のもので、他の哲学や宗教では全く教えていません。つまりア氏が説くのは生命哲学であり生命科学なのであって、その研究には学習者が自分の肉体を応用すればよいのです。人体と精神や生命は切り離せない存在ですから、それらを一体化させながら自己開発を行うのが宇宙的な方法だといえます。宗教による、人体を無視した観念の空転とは根本的に違うのです。したがって、科学と宗教とは別物だというふうに異次元として分離させては進歩はありません。

「病気になるたら医師にまかせておけばよい。肉体は神の言葉とは関係のない、汚れてたものだ」というのは大間違いで、人体にこそ最も高次元宇宙の法則が働いていることは、ちょっと病気をしてみればわかることです。人体の一部分に

何かの故障が起こった場合、手当てをしないで放置しておいても肉体内の自然治療力によって治ってゆくという過程は不思議な現象です。また病気や老化等に精神が強く作用していることは科学的にも次第に解明されています。

結局、人間は生命科学を中心とした精神の発達状態としての人間愛を燃え立たせればよいので、これ以外に何も必要はないということになります。

スペース・ブラザーズは地球の宗教を全く問題にしません。宗教はしよせん人間に恐怖心を起こさせて束縛しているだけで、人間を自由にするものではないのです。この点を詳述すれば長くなりますので省略します。

以上でもって、日本GAPを宗教的だと評する人がいかに認識不足であるかわかるでしょう。

またこの話をお聞きになる方々のなかに、お寺さんやその他の職業宗教家がいらっしゃれば、わるく聞こえるかもしれませんが、深くお考えになれば話の真意をご理解頂けると思っています。私は個人としての宗教家を非難しているのではありませんから、誤解なきようお願いいたします。

### 真の賢者とは

とにかく思わぬ発病のために一カ月余も寝込んでしまい、あらゆる計画が大幅に狂ってしまいました。一方、病床にあつてずいぶん思索や反省にふけることもできて絶大なレッスンになりました。

この発病は明らかに私の不注意によるもので、他に原因はありません。連日、十三〜四時間ずつ仕事をするというメチャクチャな肉体の酷使の結果は、当然のことながら自然の法則によって反省の機会を与えられることになりました。したがってスペース・ブラザーズは発病を事前に防止してはくれません。私自身が原因と結果の法則をより以上に学ぶのを黙視しているだけでしよう。

入院中の約二週間はベッド上で仰向けになつたまま、人間の持つあらゆる属性について徹底的に考えさせられました。

愚劣と賢明、狂気と正気、ヒステリーと穏和、エゴと愛、地球的思想と宇宙的思想等々、無数の想念が渦巻いては流れ去ってゆきます。いったい何が賢明で何が愚劣なのか、正気と狂気との境目は？

これらを類別する基準は？

「少々知能は低くても穏やかな人間のほうがよい」と言つたのはたしかドストエフスキーだつたと思います。私の郷里の方言で、やたらとヒステリックになつて他人にあたり散らす人のことを「ジラもん」と言い、そのような振舞いを「ジラを舞う」と言います。石見神楽から出た言葉で、伝説上の神々のヒステリックな行動と関係があるようです。

考えてみれば、地球という世界はジラもんだらけです。特に感情の抑制力のない青少年が多いのは過保護のせいでしょうか。すぐカッとなつて、かみついてくるような子が都内の下町に増えているようですが、これも社会の影響によるのでしょうか。

しかし大人の社会にもジラもんがかなりいます。職場の上司にそんなのがいて地位を利用して常に部下を怒鳴り散らし罵詈雑言を浴びせかけることがあるようですが、そんな環境にいる従業員は不快感で心の休まる時はないでしょう。そうすると精神身体医学的な理由で、従業員の肉体に故障が生じます。大抵の場合は胃がわるくなるのです。気骨のある従業員なら逆に上司に怒鳴り返すか、一発なぐり倒して会社をやめるでしょうが、これはだれにもできることではありません。職を失うと生活ができなくなるという心を得ているからで、怒鳴り返したい気持を抑えながら、自分の惨めさに耐えて、屈辱感とともに生きています。

世間をよく知っていると自負する人に言わせれば、企業体の経営を維持するためにはこのようなジラもんの上司や経営者が存在するのは当然であり、それに対して従業員が卑屈になりながらも命令に服するのは生活上やむを得ないことで、これが世の中というものだと、したり顔で言います。しかしこれは地球の次元で判断しているだけで、自分を高次にしようとする私たちには参考になりません。

宇宙の見地からすれば、知能の如何にかかわらず穏和で慈悲深い人が本当は賢明であり、一方、学識があつて、どんなに高い地位にあると、感情のブレーキがきかず、威張り散らし怒鳴り散らし、他人に悲痛な思いをさせる者は、しよせん愚劣です。このような人間は善良な地球人を傷つけている毒グモみたいなものです。私たちは、自己の高次元化と

宇宙志向を図ろうとする場合、あまりに劣悪な環境下にいることは好ましいことではありません。毒グモがいれば追っ払えばよいし、相手を追っ払えない立場であれば、こちらから避ければよい。

そこで、地球という泥沼のような世界において、あらゆる愚劣と狂気から脱するには、苛酷な企業体に束縛されずに一本立ちし、しかも独り暮らしをするに限るといふことになりましたが、これも万人向きの方法ではありません。地球上の経済システムを根本から変えない限り、独立するのは困難であるからです。

それなら、どうすればよいか。考えられる一つの方法は、何らかの手段によってジラもん上司の性格を柔和な方向に変化させることですが、そのような特殊なクスリでもない限り、人間の性格は年をとってもそう簡単に変わるものではありません。

「相手はすなわち自分であるから、自分が柔和であれば相手も柔和になる」というのは真理ですが、それは個人間の問題であって、相手の性格を根本的に変えることにはならないのです。

### 望ましい物事を実現させる方法

そこで残る方法は職場を変えることです。これならまだ可能性があります。

どうすればよいか？

それを実現させるには心の中に強烈なイメージを描けばよいのです。この方法は本誌64号にもくわしく述べましたが、応用する人は少ないようです。

とかく人間は自分の知能に応じて推理し判断し、行動してこそ、望ましい物事が実現するのだと思いがちです。したがって自分の知能程度や実行力と関連のない物事が実現するわけはないと考えて、最初からあきらめてしまいます。しかし心中に強烈なイメージを描くことは信念の実現のための最良の橋渡しになるのであって、これを実行すれば神秘的な力を發揮して、実際に実現するのです。

私の知る限り、このイメージ法を応用して素晴らしい結果をあげた人もGAP内にいろいろいます。たとえばメチャクチャに多忙なお手伝いさんの仕事から比較的休暇のとれやすい会社へ移った女性とか、重労働の機械工から楽しい写真製版所へ転職した青年等がいます。いずれも私にまず相談して私のアドバイスに従ったので、私の力で転職が実現したかのように思っていますが、実際は自分でイメージを描いたからなのであり、功績は本人のものです。

職場の問題で悩む人が多いので、以上の事柄を述べてみました。

およそこの世界では何事も人間の信念で決まるのであって、知能で決まるのはありません。いかに知能の高い人間が集まっても、信念を持たずにポーンとしていたら、何も実現しません。したがって信念の重要性をいかに重視してもしすぎることはないのですが、どういようわけか一般では全く無視されています。地球人の最大の欠陥の一つは、信念の力の応用法を知らないことと、心中にイメージを描く能力に欠けている点だとい

われています。再度申し上げますと、何かの望ましい物事を実現させるには、「その物事がすでに実現して、自分が大喜びしている光景」を心の中に鮮明に描けばよいのです。このようなイメージを描くと空間のどこかに青写真原図が刻まれることになり、あとは自動的に実現の方向へ自分が進むことになって、いつかポカッと実現するのです。

### 二七酒豪になった理由

話は変わりますが、私は五月十九日にこの仙台へまいりましたが、GAP仙台支部代表の笠原弘可氏が同じGAP会員の桜井良子さんと結婚されて、その披露宴に招待されたのです。私はよく知っていますが新郎新婦は立派な人物です。ご両人もアダムスキー哲学の熱心な実践者同士ですから、相当に深いカルマにより引き寄せられたのでしょう。

宴会は仙台の弥生会館（国鉄関係の施設）で行われたのですが、実に素晴らしいものでした。この会館にはきわめて優秀な演出家がいるらしくて、演出効果は満点でした。

最初に新郎新婦が入場したときは、ハッピを着た男の人がチョウチンを持って先頭に立ち「チョウチン持ち」というのは、なつかしい言葉です、これ以上ゆっくりは歩けぬというほどにゆっくりと前進し、そのあとを新郎と新婦が続ぎ、そのうしろに同じハッピ姿の男二人が長持ちをかついて従います。このアイデアは抜群で、昔の田舎の嫁入り行列を思わ

せましたが、お色直しで、大きな傘をさした二人がお染・久松スタイルで再入場した光景も見事なものでした。新婚夫妻は当節めずらしいほどの美男美女ですから、なにか舞台劇を見ているような感じでした。

そういうわけで歓喜と賛嘆と感傷とが錯綜した盛大な披露宴だったので、問題はこれからです。

左隣に座っていた初老の紳士が大変な酒豪であることに私は気づいたので、その紳士は最上座ですからその左側にはだれもいません。したがって酒をサービスするのはもっぱら私の役目で、しかも酒をつぐたびに必ずお返しがあります。この二時間の宴会中に二人で飲んだ酒は計二升五合に達したと推定しています。しかも両者とも全く酔わないんです。

ところが私の場合はその前日の夕方、多賀城市内の会員・赤間昭夫氏宅に招待されて（氏の奥さんもGAP会員で、すばらしい夫妻です）深夜まで歓談したのですが、ここで出された酒も一升以上は飲んだと、あとで氏から聞きました。このときは上山市から来られた山形支部代表・山口緑氏（若い男性です。念のため）と角田市の佐藤和枝さんをまじえて愉快に語り合いました。

とにかく二日連続して一人で二升以上の酒を平らげて、披露宴後は足もふらつくことはなくホテルへ帰り、そこで着替えをすませて、ハネムーンに出かけた新婚夫妻とともに東京まで同行しましたが別段異状はありませんでした。

ここでおことわりしたいのは、この話は私がすごく酒の飲める人間だということではなく、実はタネがあるということなのです。

実を申し上げますと、私はふだん自宅では酒を全然飲みません。ビール一滴もやらない人間です。元来、酒がキライなほうではなかったのですが、感じるところあって、昨年海外旅行から帰って以来、自宅での飲酒を一切やめてしまいました。飲むのは自宅外での他人様との交際時ぐらいのもので、それもこの頃はめったにありません。発病後はタバコもやめませんでしたから、現在、酒タバコとは無縁です。しかも病後、体力が充分に快復しなかった私が仙台まで行って、本当はかなり酒に弱くなっているはずなのに、なぜ、自分でも気味が悪くなるほどに大量の酒が飲めたのか？

### ある特殊な物質が原因

話が逆もどりますが、私はかねてから健康食品に関心があつて、これはよきそうだとしたら必ず自分で試してみます。すごい効果を持つのもあれば、イカサマもあつたりして、なかなか面白いのですが、しかし、いつか素晴らしい健康食品に出くわすのだという信念があり、そのイメージを描いていました。

すると入院中、ある日新聞を読んでいたら、ある特殊な健康食品に関する解説書の広告が出ているのが偶然に眼についたので——本当は偶然ではなかったのでしょう。その物質を服用すればガ

ンや白血病のごとき不治の病が治るといふことなので、強い興味を起こして、退院後にまずその書物を注文して熟読したあと、付近の薬局でその物質を取り寄せてもらって服用し始めたところ、たしかに私の体に大きな変化が起こったんです。そしてそのうち気づいたのは、そのために酒がいくらでも飲めるという事実でした。これはその頃ヨーロッパから帰国された知人よりお土産にウイスキーの大角ビンを一本もらったのをストリートで飲んで二日で空にしたことでわかりました。だから五〜六合の日本酒は水を飲むように飲んで、しかも酔わないんです。この特殊な物質により肝臓がすごく強化されるんでしょうね。

以上が仙台で大量に酒が飲めた理由です。誤解なさらないようにお願いいたします。私自身、到底そんなに飲める人間ではないのです。しかしその特殊な物質は高価なものですから、常時服用しているわけはありません。

とにかく、この健康食品が、かねてから私の心中に描いていたイメージにより出現したと考へても不合理ではありませぬ。信念があれば、こういう物を引き寄せることになるのです。

### なぜ他人を非難したがるのか

「気遣いの言うことを気にする人はいない。気になるのは、『相手の発言内容は真実かもしれない』と思うからだ。だから大勢の人が私を非難するのだ。彼らは私が真実を語っていると思っ

だ」

これは生前アダムスキーが側近の人たちにしぼしば語った『有名な』言葉である。米マサチューセッツ州に住むアリス・ポマロイ夫人から聞いたことがあります。この心理は心理学でいうプロジェクトジョン（投写）に相当するもののようにです。

AがBの発言を非難する場合、Aの潜在意識にはBが真実を語っていることを認めたい欲求があるのに、表層意識はそれを拒否したがつていられる。なぜならエゴに満ちた表層意識がそれを認めれば、Bに負けたような気になる。そこで相手を非難することによって（自分の過失や劣等ぶりを相手に投げ写すことによって）それを逃れようとする。これがプロジェクトジョンです。大学で心理学を学んだことのないアダムスキーが、プロジェクトジョンという名称を知っていたかどうかは別として、人間の心理に通暁していたのは相当なものです。

憐れむべきは、こうした心理学上の知識を持たないで、その実例をみずからあらわしている、アダムスキーに対する非難者たちです。日本にもいますし外国にもいます。

これからみますと、他人の言動に対しては軽々しく非難できないことがわかります。自分の無知をさらけ出すことには非難しますと「相手のことが気になるからグズグズ言うのだ」と、心ある人から軽蔑されるだけです。本当に非難をしたければ黙殺するのがよいでしょう。

### 生命科学と心理学が重要

私の考えでは、現代の学校教育の大きな欠陥は、心理学や精神分析学を中学高校の教科にとり入れていないという点にあると思います。せめて中学から必修教科として初歩の段階から教えてゆけば、精神面で大きな変化や向上があると思うのですが、こうした学問が十分に大系化されていない実情下ではまだ無理かもしれません。しかしそれにしても精神面に關する教育はあまりにもお粗末で貧弱です。もつと何とかしなければ少年少女の自殺や非行は増える一方でしょう。といつて特定の宗教の教義を土台にした宗教的な教育は絶対に避けねばなりません。それは観念論を植えつづけるだけです。

そんなものよりも生命科学（注①これはアダムスキーの「生命の科学」とは別な、人体に關する科学大系）を中心にして心理学や精神分析学のごく初歩の段階から、中学または小学校の高学年より必修科目として教えれば、生命の尊厳さに對する認識や人間愛を高める上で、きわめて有益だと思つてゐます。

### スペース・ブラザーズを

#### 見分けるには

さて、いまだにアダムスキーに対する非難や攻撃が行われていますし、彼の撮影したUFO写真に關する批判も執拗なほどに次々と出てきます。しかしスペース・ブラザーズは地球上に多数存在して、しかるべき調査研究や援助等をひそ

▼5月26日夜、仙台市の笠原氏宅へ集まった会員。

前列左より、浜村建郎、菊地啓子、笠原夫妻、編者(久保田)、大久保千秋。後列左より赤間昭夫、田中義則、野口敏治、合田みゆき、佐藤和枝、遠藤昭則の各氏。編者のカメラを使用、リモコン操作でシャッターを切ったのに、なぜ爆笑が起こったのか――。



かに行っていると聞いています。日本GAPが彼らの注目的になっっていることは間違いないです。私はかなりでなく、会員のなかで特に熱心な方は、ひそかな援助の対象になっていると思います。また、自分では気づかないで、別な惑星から来た人と接触している方もいることでしょう。

私が出版屋をやっていた初期の頃、二人のスペース・ブラザーズが仕事の手伝いに来てくれたことがあるのですが、そのとき居合わせた数名の社員のだれも気づきませんでした。あとになって一社員

が「あの二人は不思議な人物だった」と語った程度です。

人間の心、特に肉眼の感覚はいい加減なもので、あてにはなりません。したがってスペース・ブラザーズを肉眼で見分けようとしてもだめです。「意識眼」でもって見る、つまりフィードバックによるのです。それは単なる好奇心ではなく、せんさくすることでもない、何かを貫くような洞察力です。

これを開発するには「生命の科学」57頁にある次の方法の応用が重要です。「この大いなる英知と共に働くに際して

友星人が用いる方法は、心のかわりに自己の意識でもって万物を観察することにあります。わかりやすいえば、彼らは観察される個体があたかも自分であるかのようにその個体について意識的になるのです」

「私たちが鏡に向かいますと、自分の姿が映って見えます。そのとき鏡の中に見える像もこちらにいる自分を見つめているのであると、ある種の哲学でいわれていますが、ポイントはこれです。

万物の何を見ても、すべて「もう一人の自分が、こちらにいる自分を見ているのだ」というフィードバックを起すのです。生物ばかりか無生物を見てもそう感じるような自己開発を行います。そうすると、「万物は結局、自分自身以外の何物でもない」というようなフィードバックが高まるのですが、これが本当の万物一体感です。頭の中で理論をこねまわしてもだめです。これは理論では解決のつかない問題ですから、とにかくフィードバックで感じる以外に方法はありません。

そうしたフィードバックを基礎にしていれば、スペース・ブラザーズらしい人を見かけた場合、好奇心でジロジロ見るとはしなくなりす。そして確かめようと思えば、

「あなたは別な惑星から来られた方ですか？」

と、心中で質問の想念を発してテレパシーで送信するのです。すると相手は本物ならば微笑しうなすくか、その他、何らかの動作によって正体を明示するでしょう。

五月の東京月例会で、一会員の方が興味深い体験を話されました。

数年前、埼玉県の入間基地で開催された航空ショーを見に行ったとき、ある会場の中で二人の男が机に向かって仕事をしている光景を見たときに、スペース・ブラザーズだ！と直感したので、心中にそのような想念を起したら、相手の一人がギクッとしたような顔をして、こちらを見てから仲間の方へ顔を向けて微笑し、二人で笑うなすき合ったので、間違いないことを確信したけれどもあまり見つめてはわるいと思って、それ以上は質問できなかったということでした。

これは貴重な体験です。私たちもここで「思わぬ人の子の訪問」を受けるかわかりません。神経を敏感にして知覚力を高めておく必要があります。

とにかくアダムスキー問題には、常識や社会通念をはるかに超えた驚異的要素が含まれていますから、学識や教養で判断しようとしてもだめです。むしろ重要なのは「直感力」です。この直感力なるものは学識、教養、身分、性別、老若などとは一切関係なしに、アル人にはありますし、ナイ人にはないという、つかみどころのない実体ですが、これには過去世からのカルマが大きく作用しているようです。

### 過去世からのカルマと直感力

カルマというのは何度も申しますように「原因と結果の法則」という意味を持

たせて私たちは使用していますが、更に宿命とか運命というような意味も帯びさせています。しかし「すでに決定してしまつて、絶対にのがれることのできない宿命」という暗い観念的なものではなくて、ある原因によって形成された結果という程度の法則性を意味する言葉にすぎません。したがって人間の運命は、想念という原因によってどのようにも好転し得るものであるという明るい建設的な思想が含まれています。

しかし人間の一生涯における大まかな運命は大体にきまつています。たとえ私が選挙に打つて出て当選し、胸に議員バッジをつけて国会に登院するようなことは逆立ちしても実現しないことですがこれは私が政治家になるようなカルマを持たないからだと言えます。だいいち、そのような意欲が全くないのです。

今生における一人間のこうした方向づけというものが偶然にきまるとは思えません。ある人が偶然に政治家になる素質を持ち、ある人は偶然に音楽家になる素質を持つとしたら、これぐらい不公平な創造はないこととなります。これについては遺伝ということも考えられますが、もっと深く考察しますと、過去世からの何らかの関連によるということになりそうです。それでも考えないことには解決はつきません。

アダムスキーの体験記を読んだAは、こんなのはインチキだと一笑に付すでしょうが、Bは、ハテナ？と考え込むでしょうし、Cは「すばらしい！これは事実なのだ！」と眼を輝かせて、遠い惑星

に思いを馳せるかもしれません。AもBもCも一流大学出で、高度な学問を修めた人であり、しかも専攻も全く同じだというのに、こうした事例はあるのです。そうすると、こうした体験記を読んで

インチキだ、事実だと判断するのは、本人の学識や教養ではなくて、そのようなものを超えた、もっと異次元な「何か」であるにちがひありません。それは一種神秘的ともいふべき洞察力なのであってこれを私たちは直感力またはフィーリングと呼んでいます。

このようなフィーリングこそ人間にとって根本的に重要なものだから人間は人間の日常生活を観察すればわかることです。フト何かを思いついて実行に移したばかりに、すばらしい物事が展開するかと思えば、反対に、予想もしない悲惨事を招くというようなことが何度あるかできません。この「フト思いつく」というのは内部からわき起こる印象または衝動を意味しますけれども、これには宇宙的な(または普遍的な)正しい印象もあれば、間違つた印象もあります。そのいづれに従うべきかは、自分自身を訓練しての確かな判断力を養うようにすること以外に、方法はありません。

ところが一般地球人は、印象に気づく能力すらなくて、ただフラフラとあらゆる衝動に盲目的に従っているだけですから、これでは事故などを避けることも不可能になるわけです。この激動の世界を生き抜くのに学識や教養などがあまり役に立たないということは、人生を五十年ほど生きてみればわかることです。もち

ろん職業上の技術を身につけて「仕事のできる人間」になっておく必要もありますが、根本的に重要なものは、一種の鋭いカン、すなわち直感力またはフィーリングである、ということが成長するに当たってだれしもわかつてくるはずだ。

### 重要な転生の問題

私たちは創造主の子として生かされてる以上、基本的には愛、慈悲、親切などの精神を土台にして、そのような行為を他人にほどこさねばならないのでしようが、鈍感な親切は、かえって他人には有難迷惑になるでしょう。そこで親切を生かすためには知恵を働かせる必要が起こつてきますけれども、この知恵というのはただの頭の良さではなく、他人の気持ちを敏感に察知する一種の感知力ともいふべきもので、これまた学識教養を超えた「何か」です。

ある人はこの「何か」を充分にそなえていながら、他の人には全くないというのは、明らかに過去世からの持ち越しが原因となつています。

そこで私たちは転生(生まれかわり)という問題を重視せざるを得なくなります。これは非常に深遠な要素を帯びた問題でして、おいそれと解決は見い出せませんが、どのように考えても、人間は転生すると考える方が、考えないよりも合理的であることはたしかです。二十一世紀はこの転世の問題が重要な研究対象になるでしょう。そして人間がテレパシクなフィーリングによって生きる時代も

到来するでしょう。いづれそういう時代が来るものと私は確信しています。

### 騒ぐ必要はない

しかしそれまでにひょつとすれば第三次大戦または自然の大変動が発生するかもしれません。人間も大幅に淘汰されて減少し、世界がもっと静謐(せいてい)になって、本来の意味での黄金時代が来るのかもしれない。現在のように人間ばかり増えてあらゆるものが無秩序に展開し、狼藉(わんじやく)をきわめているこの惑星表面は、一度、大掃除を行つて、整頓し直すほうがよいでしょうし、またそうするのが自然の摂理なのでしよう。

エネルギー資源も危機が迫る一方で、ただではすみません。いづれ世界がどえらいことになるような気がします。

しかし何が起ころうと騒いでも始まりません。宇宙の意識という大海はあらゆる清濁を呑み込んで適当に処理をほどこすでしょう。人間が人間を処罰しなくてもカルマの法則によって、だれしも行くべき所へ行くのですから、そこは絶対公平な宇宙の法則に従うのみです。

以上を理解されますと、GAP活動は対社会的というよりも、対個人的な要素が強いことがおわかりになるはずで、我々が一般人を指導してやるのだという背負い気分は毛頭ありません。大勢の他人がうつろな眼付きで、あわててどこかへ走り去つても、自分だけはここにいようというのが私たちの生き方です。

# 各地支部総会 行事報告と予 告

(79年3月以降分)

## ▼岐阜支部大会

●三月十八日、岐阜商工会議所。  
●午前九時より午後六時まで。  
●出席者約六十名。

三月十七日午後六時頃、久保田先生は宿舎のワシントンホテルに到着され、同ビル内の料亭で大阪支部代表の片<sup>た</sup>氏、渡辺氏、寺沢嬢、島田氏、福知山支部代表の仲間氏、岐阜支部では間嶋氏と私、東京方面から浜村氏、遠藤氏の十名で和気あいあいたる雰囲気のなかに親交を深めた。

前日の十七日は雨天であったが、十八日の大会当日は快晴に恵まれ、午前九時には会場は超満員となり、遠方からは千葉県や尼崎市などより多数の会員諸氏が参集されて、熱気で圧倒される思いであった。

まず午前九時より私の挨拶と「永遠の生命を得るには」の講演があり、十時頃より大阪支部代表の片氏による「自我の変換」の講演が行われ、エゴ心を取り除くことの重要性を強調された。その後十一時より久保田日本GAP主宰者による「アダムスキー哲学と良きカルマ」の講演が行われて、ア師哲学による人間の運命とカルマについて説かれた。

午後「エジプト宇宙考古学遺跡の旅」のスライドが映写され、カラーのすばらしい大画面に陶醉し、そのあと質疑応答が行われた。会場内にはアダムスキー師の記事コピーや「生命の科学」の小冊子も実費で希望者に配布され、滋賀県のS氏らによるア師関係のUFO写真類や資料が会場狭しとばかりに百種類以上も展示され、来場者の理解を深めた。後日、S氏の報告によると、岐阜支部大会終了



後に車で同行者と帰宅途中に、滋賀県の日野町国道を計六機の宇宙船が次々とS氏達の頭上の高空を通過して行くのが認められたとのことだった。

午後五時からは岐阜駅前ヤマトレストランでスキヤキパーティーがあり、約五十名の方が参加された。翌日の十九日は先生と有志七名程で犬山の明治村へ行き、各種の古い建築物を見学したり古い市電に乗りしたりして楽しい一日をすごした。岐阜支部大会が大成功裡に終了したのも支部会員諸氏や久保田先生、片氏その他の方々の厚きご協力とご援助のたまものであり、深く感謝をいたす次第であります。(松尾和也記)

岐阜支部大会はすばらしい会合であった。会場内には高次な宇宙的波動が充満して、地球上のあらゆる人間がすべてこのような調和した美しい姿で生きるならば、この世は極楽になるであろうに思われるほどだった。私たちの活動は世界の大勢に何の影響もたらさないだろうが、少数ながらも真剣に宇宙の法則を探求する方々には必ずそれなりの良き応報があることを力説した。したがってこれは対社会的というよりもむしろ対個人的な問題である。こうして個々に親しく話し合うことの重要性を痛感したのであった。

翌日は快晴の中を有志の方々と共に明治村へ見学に行った。小公園程度のものかと思っていたら山や谷に囲まれた百万平米の広大な敷地に明治時代の由緒ある建築物が約五十軒移築されており、その

すばらしさに一驚を喫した。昔風の服装のヒゲを生やした警官や電車の運転士がユーモラスな演技で観光客を爆笑させている。ここは全く浮世離れた別天地である。スケール、レイアウト、学術的価値等からみて国内の行楽地としては抜群である。全国の会員諸氏も一度は訪問されることをおすすめしたい(ただし晴天の日に限る)。お世話になった松尾氏その他の方々に厚くお礼を申し上げる次第である。(編者)

## ▼静岡支部総会

●五月六日、静岡市民文化会館。  
●午後一時半より五時半。  
●出席者三十七名。

晴天に恵まれた五月六日、新装なった静岡市民文化会館で、県内の会員の方々をはじめ、北は山形、南は三重そして近県からも熱心な会員の方々が出席され、素晴らしい雰囲気の中で静岡支部総会は開催されました。今回は山形支部より立派な生花を頂き、一段と総会の雰囲気を高揚させてくれました。

司会のあと久保田先生の挨拶、そして『アダムスキー哲学によって救われる方法』という題の講演がありその中で、我々は、アダムスキーの「生命の科学」「テレパシー」これを何度も読み返して生活の中で実践すればよいわけで、その中心になるのは人間愛に尽きる、これを実践してゆけば良きカルマができ、必ず救われるのである、と熱弁をふるわれました。また地球上の現在の宗教にはブラザーズは、一切関心を示していないと力

説されました。

そして、記念撮影、久保田先生の解説による「エジプト宇宙考古学遺跡の旅」のスライド上映、質疑応答とすべて順調に進み総会は大成功裡に閉会しました。そのあと夕食会があり、和やかな、会員間の交流をもつことができました。

今回の総会を記念して、県内の主要都市の図書館に久保田先生の訳された一連のアダムスキー関係の本を寄贈することになりました。これでまた何人かの人が、宇宙の真理にめぐめてくれるとよいのですが……。

今回は特に、久保田先生には病気で退院されて間もないところを静岡支部総会のためにご出席いただきまして誠に有難

うございました。また当日いろいろとご協力下さった方々、そして遠路はるばるご参加された皆様方に心より感謝申し上げます。

(野口敏治記)

病みあがりのため、まだ体がフラつく状態だったが、とにかく一生懸命にやっただ。参加者は少数なるも、すばらしい人々の集まりであり、雰囲気は最高であった。こういう会合へ出ると、公開を秘していた話も、つい、しゃべりたくなる。それほどに次元の高い大会だった。野口氏を始めお世話になった方々に深謝する次第である。なお日本平へ案内する予定だったそうだが、病後のこととて遠慮した。(編者)

## ▼仙台支部総会

新緑の空気に夏の日差しが光る今日この頃です。GAP会員の皆様には元気に御活躍の事とお喜び申し上げます。

さて私共仙台支部におきましては、去る五月二十七日(日曜日)久保田先生をお迎えして、第二回仙台支部総会を仙台市市民会館にて開催いたしました。

参加人数は三十七名と前回を下回ったものの静岡から支部長の野口氏一行等が駆けつけて下さるなど会場は熱心な空気に包まれました。

今回はスライド上映をやめて、久保田先生の講演・質疑応答を中心に語り合うための余裕のある会になりました。

司会者、田中義則の挨拶、笠原の挨拶の後、久保田先生の講演に移りました。「科学と人間愛と信念」と題する講演は素晴らしい言葉——というより波動に満

ちていました。地球の宗教はダメだ、と言い切り、自然の観察と一体化のフィリングを起こすことの重要性を説かれました。質疑応答は思った程の質問数はありませんでしたが、深遠な意見も見られ、長時間をさいた成果はますますとい

ったところでした。総会終了後は喜楽寿司にて夕食会が開かれ交流を深めました。

このような会に参加するたびに感じるのは、高い波動に触れることの重要性です。私のように未熟な者には千金以上の価値がありました。

明るる二十八日は先生と数名の会員の方は奥松島観光に出かけ大いに英気を養いました。

参加された皆様、献身的に協力された支部会員の皆様、久保田先生、本当にありがとうございました。(笠原弘可記)

行こう——予 告——大阪へ

## 日本GAP大阪支部総会

下記の要領で大阪支部の総会を開催します。多数ご参加下さい。

- 日 時 昭和54年7月15日(日) 10:30→17:00
- 会 場 大阪市東区京橋3-15「大阪府立労働センター」5F 視聴覚室。(京阪電車及び地下鉄谷町線天満橋駅西へ200m南側。TEL(942)0001)
- 会 費 500円。当日ご納入下さい。
- 夕食会 18:00→21:00/会費4,000円  
詳細は当日伝達します。

——プログラム——

10:30→12:00片大阪支部長挨拶・講演「宇宙哲学と聖書について」/12:00→13:00昼食休憩/13:00→14:00日本GAP久保田主宰者講演「アダムスキー哲学の意義」/14:00→15:00スライド映写「エジプト宇宙考古学の旅」(これが最後の映写)/15:00→15:45質疑応答/15:45→16:50岐阜支部長松尾和也氏講演/16:50→17:00閉会の辞。問合せは片まで。  
TEL(0720)31-5646(寝屋川市香里北之町20-14)



# 会員の声

信念の重要さを痛感する

山形県 柴田文字

久保田先生お元気でいらつしやいますか。先月の東京例会では「生命の科学」の素晴らしい御講義とお話をどうもありがとうございました。毎回そうなのですが、先生の御講義を含めての貴重なお話には圧倒されてしまいます。聴いていて体中の血が逆流するような、そんな感動さえ覚え、心の激動を抑えることができなくなつてしまいます。先生の話されるのが私の求めている全てであるような気が私のです。

先月の(二月の)例会では信念を持つことの重要さを特に痛感させられました。自分自身を振り返ってみると、いかに信念の欠けた人間であるかがわかります。「こうありたい絶対こうなるんだ」という信念を持つとうとして、現実の世界だけを見てしまつて、「もしかしら……」というような弱気になつてしまつてとがたびたびあるのです。

これではだめなんです。盲目的な信念を持ち続けるということは本当に大変なことだと思います。でも先生がおっしゃるような、信念を持つことによって自分の運命さえ変えることができるならば、やはり強力な信念を持ち続けるよう努力したいと思えます。また、自分が万能の子であるを確信するならば、ど

投稿歓迎。「会員の声」宛と記し適当な用紙を使用。タテ書き。字数自由、匿名可。但し住所本名明記。

のようなことに対しても立ち向かつてゆけるような、そんな気がするのです。たとえ自分自身の弱いマインドに対しても——。

この頃何となく内部からの印象というのがわかるようになってきました。常にどんな時でも内部に目を向けるような心がけていると、自分では意識しないのにいろいろなことが湧き起こってくるのです。心で解決困難に思えるような問題でも考えることをやめて、じつと自分を客観視していると、ふつと答が浮かび上がってくる時もあります。いろいろな信念が湧き起こってきて、どれに従つたらいいのかわからなくなる時もありますが、それは先生もおっしゃる通り、何度も何度も練習を積んで失敗を繰り返すうち、宇宙の意識からくる正しい印象がそうでないかを判断することができるようになるのです。

今度、夏行われる「アメリカ中米宇宙考古学の旅」に参加させて頂くことにしました。海外旅行なんて自分にとっては縁のない遠い世界のことのように思っていたのですが、山形支部総会時に先生の旅行に關してお話をうかがったり、アメリカGAP本部のステイブ・ホワイティング氏の感動的な講演会に出席したりしているうちに、どうしてもアメリカGAP本部とアダムスキーが金星人オゾンとコンタクトしたデザートセンターに行きたい、という強

烈な内部からの衝動にかられたのです。これはアダムスキーのあの劇的な宇宙船同乗の体験を知った時からの私の夢でもありました。旅行が終るまで何があつても絶対行けるのだ、という確固たる信念を持ち続けたいと思つていきます(編注：柴田さんは四月まで埼玉県に在住し、以後郷里の山形県新庄市へ帰られた)。

## UFOのすばらしい目撃体験

岩手県 熊谷友子

先日は御多忙中をお返事いただきまして、まことにありがとう存じました。以前のように東京住まいでしたら私のような者でも出来ること——ニューズレターを局へ運ぶ仕事とか何等かのお手伝いをさせていただけますのに——と残念に思っています。

早速ながら去る一月二十九日にUFOの訪問を受けましたので遅くなりましたがお知らせ申し上げます。前日、仙台の月例会に都合で出席できず、大変がっかりしましたので、宇宙人が慰めにくてくれたのだよと母にいわれておりますが——。

午後四時半頃、自転車で外から帰ってきました。家へ入ったとたん急に二階へ行きたいという思いが生じました。二階は寝室にしているだけなので、昼は掃除以外めったに上がってゆくことはありません。就寝前はかならず窓をあけ、「UFOはいないかなア」と眺める習慣になってましたので、想念に従つて二階へ行つた私はすぐ窓をあけ、庭に面した南の空を見ました。「カラスしか飛んでないア」と思つた瞬間、そ

の中に何やら動く白っぽい物体が見えました。それは私が窓から顔を出すのを待っていたかのように少しずつ動きはじめ、やがて黄金の光の尾を引きながらこちらへ向かつてきました。

白銀色に輝く円盤が実にゆっくり回転しながら私の頭上を越え、北東の海上方向へ上昇して行きます。見る見るうちに光の尾は長くなり、雲一つなかつた青い空に長いながい黄金の橋がかかったと申したらよいでしょうが、本当に見事なショーでした。この光の長さは千メートル以上あつたような気がします。バックが太平洋岸の広い空ですし、科学的な頭がないので正確な見当もつきかね申し訳ございませんです。

光の太さは電線に近い低いところでは家の柱くらいに見えましたから十五・二十センチあつたのではないのでしょうか。円盤の上昇につれて光の尾は細くなり、そのあと地球のヒコウキが通過したあとのように白い雲がたなびきましたが、これがまたびつくりするほど長く、光の長さとは比例しているか、それ以上のようにも感じました。残念ながらこの日カメラにフィルムが入ってませんでした。入つていても私の安物では撮れなかつたかも知れませんが——。円盤、光、白雲すべてが消えるまで十数分はかかったような気がいたします。二階から見おろしたところでは、学校帰りらしい女子高校生が二人立ち止まって見上げていました。少しはなれたところで子供たちが数人空を指さし驚いている様子でした。午後四時半といえど地球人は忙しい時刻で、とくに寒い北国ですし

あまり空を見ている人はいなかったのではないのでしょうか。光が出る前より見せてもらったのは(気付いたのは)私だけのよう気がします。私宅では父に見せることができず。残念ながら母は入浴中でした。九十四歳の父は大変おどろき、この日「良きおどろき」のためか、この日以來元気がより戻し、読書もできぬほど弱つていました。UFO関係の本等に目を通しはじめました。ありがたいことでございます。

この三日後に日本テレビのUFO番組で目撃者は外務省へ知らせた下さいとのことでしたので、簡単に一筆しておきました。ガレリオになり、真剣に研究しているGAP会員ですと書き添えて出しました。

昨年、関西でも二度見ましたが、それは格別にも明星だなど見つけていましたら、突然にもそのスピードで上昇し、数秒間で消えたものです。陽の昇っている時刻に見事な黄金色の尾を引くのをゆっくり見せてもらいましたのは今回が初めてでございます。

ふしぎなことに、このUFOの現れる前の十日間くらいあいだ、毎日街を自転車で行っています。反対側の川向うの山へ行つてみたたくしかたがありませんでした。この山の方から何と申したらよいのでしょうか、うまく表現できませんが、何かあたたかい安らぎのある波動、想念が送られてくる感じでした。でも今は寒いから、あたたかい春の訪れを待って行つてみましょうと考えていましたが、思いがけないUFOの出現(この山のふもと近くに日本で三番目に高いといわれているラサ工

業のエンツツがあり、その右側の空より現れました)で、ただびっくりし、また嬉しく思いました。

### 転生してきた 子供たちの扱い方

山口県 舛岡光子

お元気のことと存じます。お忙しいので手短かにと思えますが、どうぞ読んで下さい。

ニューズレター66号が先日到着し大変嬉しく、久保田先生の愛情、信念のあふれる文面に接し、いつもいつも心が暖まります。ハワイティング氏の高貴な波動を文面からも感知でき、とてもhappyな気分がしています。

さて私の息子(六歳)は昨年の夏頃よりオーラらしきものが見えると言いはじめ私自身大変驚いています。また太陽の光も私達の見ているものより違うらしいのです。そして透視も可能らしく、時折びっくりするようなことも言います。そして彼によりますと、花にも色のあるオーラが見えると言っているのですが、今の私には彼を上手に導くことができるかどうかわかりませんが(私自身にそのような能力がないので)、宇宙の法則にそって出来るだけ正しく導きたいと思っています。

私の娘(九歳)は他の惑星から転生により来たらしいのです(これはステックリング氏も正しいと言っています)。日常の生活態度を見てみると、どうも私達の習慣にとまどうっている様子がわかります。また学校での勉強も地球的なことを教わりますので、最初はとても苦手のよう

でした。しかし近頃はかなり慣れたようです。幼児の時の好みの傾向も地球で転生をくり返している子らとは違っておりました。またテレパシーを使って会話をしていたらしいのです。私は彼女が小さい頃は宇宙哲学なるものを意識しておらず、全くへきえきしたものです。今も「相手にわかってもらうためには口で説明しないとダメよ」としか言いようがありません。

前生より、より多くの記憶、知性を持つてきた子供程、この世ではむつかしい子、可愛くない子、子供らしくない子として、いかに片づけられていることでしょうか。げんに私の息子に対して私の姉は全く地球的な考えで「ちょっと小心だ」と忠告してくれました。しかし正しく子供達を理解するならば、イヤな子というのは全く大人サイドの見方ではないでしょう。母親こそ目覚めねばならないのではないのでしょうか。自分が向上することを切に願ひながら進歩があまりに遅々としているためにいらだたしささえ感じること頻です。私のGA氏に対する支持は終生かわることはないでしょう。

### ●ご協力のお願ひ

高松市 日下 昭

友人、古川静夫氏は香川県立志度商業高校定時制教頭をしておりますが、来年三月定年退職をします。今年秋の文化祭が最後の文化祭になりますので、「UFO宇宙人展」を大々的にやりたいとの申出がありました。この際、会員の皆様のお力添えをいただきたいと存じます。どうぞ

皆様、UFOと宇宙人に関するフィルム、スライド、写真、資料等がありましたら、相応の料金でお貸し下されば有難いです。左記へ直接ご連絡下さい。

〒769-21 香川県大川郡志度町志度366、香川県立志度商業高等学校定時制教頭 古川静夫

### ●お願ひ

大分県内在住の会員の方、並びに九州地区の会員で今年のアメリカ中米宇宙考古学の旅に参加される方、ぜひご連絡をお願いします。

〒874 大分県別府市浜脇3-5-35 首藤秀利

### ●松山に支部を!

愛媛県松山市にGAP支部の設立を切望して目下同志の方々と話合中です。男性の方が代表になられることを望んでいます。同地方の会員のために奉仕しようと思われる方は左記宛ご連絡下さい。

〒790 愛媛県松山市中村3-6-6 藤原美由紀

### ●京都にも

私は京都に在住するGAP会員ですが、以前から京

都に支部がないことを不思議に思っておりました。できれば京都支部を作って下さる方、いらっしゃらないでしょうか。私もできる限りのお手伝いをさせていただきますと思っています。(匿名氏より)

### ●GAP天体観測会を開催します

日時 本年九月一日(土)・二日。場所 千葉県安房郡天津小湊町内浦の「内浦山泉氏の森(巨大公園のようになったキャンプ地で、各種の施設あり)」電話 〇四七〇九一五二八二一。

集合場所 国鉄外房線「あわかみなと」駅前に一日午後五時に集合。会費 一人千円前後(本館宿泊棟の

一泊五百円の宿泊料を含む)募集人員 四十名。参加希望者は八月五日までに左記宛お申込下さい。〒294 千葉県館山市北条2645 北条海岸市営住宅7号、鈴木一宏 携行品 夜間はかなり冷えるので、厚目のセーター、ヤッケ、双眼鏡、望遠鏡等。当方も望遠鏡その他を準備します。

参考 九月一日は月令九・八の上弦の月。(註 九月が西の空で弓のつるが上にある形にみえる半月形)金星は宵の明星。マイナス三・五等級。流星群はなし。現地は大自然中の静かな場所。詳細は七月十四日の東京月例会で鈴木が説明します。ふるってご参加下さい。

英語を母国語同様にする!

ひとりでできる英会話

久保田八郎/アン・デイカス

全国書店で絶賛発売中



■英語の語感を身につけて母国語同様にするには、英語で考える習慣を身につけねばならぬ。英語で考えるためには、自分自身の日常の行動に際して、英語でひとり言をつぶやくに限る。これこそ英語を自分のコトバにする魔術的な方法である——という著者久保田八郎は多年の研究と実験の結果、ついに秘法を公開した。これこそ他に全く類のないユニークな学習書であり、これにより、読者はむろろうちに英語を口から出すようになって狂喜し、(英語で考えることのできる世界)を作り上げて、英語圏内に住む一人となるのだ!

■本書の主体をなす第1部では、丸の内の大貿易会社につとめる混血の青年ユキオ・ブラウン君の春の一日がストーリーとして展開し、その間たえずユキオが英語でひとり言をつぶやくながら行動する。読者も一人のユキオになつて、日常生活で彼と同じ英語をつぶやけばよい。そのようにして「慣れる」のだ。第2部は英語のひとり言の重要なきまり文句集。第3部は外人にものを頼むときの模範的会話集。第4部は英語の文語体と口語体の相違を豊富な例文により解説。冒頭の「発音上の注意」や全巻にわたる脚注と共に、一般に知られていない意外な事実を多数浅らしている。

B6変型判・159頁・厚手質紙使用  
¥720 千120 (日本GAPでは取扱いません)

主婦の友社 TEL. (03)294 1111(大代表)振替・東京2 180

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6

# さあ行こう、アメリカと中米へ!! 出発迫る

## 日本GAP企画第1回「アメリカ中米宇宙考古学の旅」

▶かねて募集した日本GAP企画の今年度の海外旅行は大反響を起し、3月末までに65名という大人数に達して、北は北海道、南は九州に及ぶ全国の会員中から熱心な方々が申込をされ、企画者と提携旅行社は感激裡に徹底的な打合せ、準備をすすめている。すでに東京と大阪で第1回説明会を終えた。

▶一行は8月11日夕刻成田空港を出発。ロサンジェルスを見学後、12日にカリフォルニア州南部のパロマー山へ登り、パロマーガーデンズ、パロマー天文台を見学して、ビスタのGAP本部を訪問。夕刻は同町のスージーレストランで日米GAPの合同夕食会を開催。ビスタに一泊し、13日はデザートセンターへ行き、ア氏とオーソンの会見地を視察。同夜ロスに一泊し、翌14日はメキシコ市へ行き、市内見学とテオティワカンの大遺跡を見て、16日にグアテマラへ入り、17日にユカタン半島のティカルのジャングルに眠る古代マヤ最大の遺跡を見学。18日は保養地のリキンで休養し、19日にグアテマラ市へ帰り、20日にふたたびロサンジェルスへ帰って市内を見学し、21日に同市を出発、22日に成田着という全行程12日間の旅である。ほぼ全員がGAP会員であり、まれにみる大部隊のため、さぞや愉快的日々が展開せんものと胸が高鳴り、思いを遙けきパロマー山の夕べの雲に馳す。デザートセンターで2機の金星の円盤が超低空で出現して大騒ぎになる光景を静岡市の野口氏が夢で見た。けだし予知夢ならん——。

### <参加者名簿> (申込順)

※印の方は海外旅行経験者

氏名	現住地	職業	備考	氏名	現住地	職業	備考
1 合田 みゆき	東京	会社員	※	34 山木 益巳	東京	会社員	
2 野口 敏治	静岡市	自営	※	35 坂野 美津子	函館	小学教員	
3 原 弘子	東京	洋裁	※	36 加藤 登志子	東京	会社員	※
4 小野 貴生	愛知県	大学教授	※	37 望月 涉子	神奈川県	"	
5 大久保 千秋	静岡市	会社員	※	38 足立 亘宏	新潟市	"	
6 仲間 秀樹	福知山市	国鉄職員	※	39 成田 智恵子	東京	学生	
7 大山 ひろみ	栃木県	無職		40 西山 博美	"	"	
8 柳原 信一	福井県	造花商	※	41 井口 才司	"	会社員	
9 大久保 隆	東京	会社員		42 斉藤 一弥	"	"	
10 坂本 節子	千葉県	ホテル社員		43 野原 次男	千葉県	教員	
11 大桑 光順	静岡県	会社員		44 石井 晴美	茨城県	国家公務員	
12 小島 国弘	浜松市	国鉄職員		45 福田 昌利	名古屋	会社員	
13 間嶋 泰行	岐阜市	治療師	※	46 柴田 文子	山形県	"	
14 菊地 啓子	栃木県	会社員	※	47 野島 哲浩	高知市	中学教員	
15 佐藤 和枝	宮城県	"	※	48 元木 和雄	熊本県	外食業	※
16 近藤 富子	埼玉県	"	※	49 橋本 明	栃木市	会社員	※
17 渡辺 護	東京	"		50 首藤 秀利	大分県	学生	
18 穴原 美智子	神奈川県	着物きつけ		51 小方 健治	東京	会社員	
19 鈴木 一宏	千葉県	地方公務員		52 子安 達雄	大阪	袋物製造	※
20 山部 清英	福知山市	会社員		53 若林 昭夫	埼玉	自由業	
21 竹野 浩子	横浜市	看護婦		54 大坪 広千	千葉	銀行員	※
22 " 期子	鹿児島	公務員		55 菊地 喜之	"	海自隊員	
23 " まり子	横浜市	会社員		56 松若 昇	東京	会社員	
24 豊田 由美子	"	銀行員		57 斉藤 康美	大阪	"	※
25 新堀 八千代	"	学生		58 岩松 真木子	兵庫	学生	
26 千田 光明	横須賀市	財団職員		59 木崎 茂春	福島	自由業	
27 菅原 恵子	千葉	会社員	※	60 熊倉 清貴	群馬	農業	
28 浜村 建郎	"	学生		61 神原 敏弘	舞鶴	国鉄職員	※
29 遠藤 昭則	"	中学教員	※	62 池田 玲子	広島	ピアノ教師	※
30 越崎 裕子	在米	留学生	通訳	63 (添乗員1名予定)			
31 加畑 節男	東京	学生	※	64 久保田 八郎	東京	GAP主宰	団長
32 岡本 静江	大阪	飲食業	※	65 田中 正	神奈川	ワールドセブン社	添乗員
33 斉藤 純一	千葉	会社員		66			

予告

先は長いが計画は周到

# 昭和54年度日本GAP総会

ベルギーGAP主宰者  
キース&メイ・フリットクロフト夫妻による

# 大講演会開催

世界屈指のUFOと  
宇宙哲学研究大集団  
が放つ今年度の巨弾



本年度日本GAP総会にはヨーロッパきってのUFO研究家、ベルギーGAPリーダーで、アダムスキーに親しく師事したキース&メイ・フリットクロフト夫妻を招待して大講演会を開催いたします。会員の皆様のために来日してヨーロッパのUFO研究事情、アダムスキー問題や宇宙開発等に関する素晴らしい話題や秘話を公開する夫妻の高次なスピーチをぜひお聴き下さい。

- ★主催 日本GAP
- ★日時 昭和54年11月23日(金曜日・祭日) 10時より。
- ★会場 都内・皇居・北の丸公園内「科学技術館」地下大ホール  
地下鉄東西線「竹橋」下車。毎日新聞社ビル前の竹橋を渡って徒歩3分。
- ★会費 ¥3,000 (当日受付でご納入下さい)



## プログラム

10:00→10:15	開会の挨拶	久保田八郎
10:15→12:00	講演「アダムスキー問題と宇宙開発」	キース・フリットクロフト
— 昼食休憩 —		
1:00→3:00	講演「ヨーロッパのUFO事情、ベルギーGAPの活動とアダムスキーの思い出」	メイ・フリットクロフト
3:15→5:30	スライド映写「パロマー山、米GAP本部訪問、アポロセンター見学その他 200点以上」	久保田八郎 (今夏の「アメリカ・中米宇宙考古学の旅」より)

### ＜ご注意＞

- 会場の受付は午前9時より開始します。 ●ホール内での喫煙・飲酒・食事はご遠慮下さい。
- 昼食は休憩時に会館内の地下食堂(セルフサービス・安価)か他の場所ですませて下さい。 ●再入場する場合は必ず胸にリボンをつけること。
- テープレコーダー、カメラ持ち込み可。ストロボとフラッシュの使用も許可します。録音内容やスライドの複写を他の刊行物に掲載しないこと(著作権は日本GAPが所有)。
- 控室へ不意に侵入したり、ホール外の場所まで夫妻をつかまえて質問をあげせることはご遠慮下さい。

## 歓迎大パーティーを開催!

当日総会終了後、フリットクロフト夫妻歓迎大パーティーを下記の要領で開催します。会員の参加自由につき、ふるってご出席下さい。

■当日はアトラクションとして会員・衣笠陽子嬢の日本舞踊の上演とフ夫妻の社交ダンスが行われます! ■

とき	6:30→9:00 (立食形式。料理・ビール・酒・ジュースをたっぷり準備。椅子も多数用意)
ところ	東京駅・丸の内側南口構内「精養軒」2階ホール(100名まで可。南口改札所に向かって右手奥) 注意! 駅の外ではなく駅舎内ですから間違えないように。八重洲側ではなく、東京駅の丸の内側(皇居側)です。
会費	¥4,000 (パーティー会場でご納入下さい)
申込	会場準備の都合上、パーティー出席希望者は、「フ夫妻歓迎パーティー出席」と記して、ハガキで10月末までに日本GAP宛ご予約下さい。満員(100名)になりじだいにメ切ります。予約申込者には整理券をお送りしますから、入場の際に提示して下さい。(5月末現在で出席申込者は約40名)

※ご注意  
従来、総会直後のパーティーには地方支部代表の方を無料で招待していましたが、経済上の理由により、今回より会費を頂くことになりましたので、パーティー出席希望の支部代表の方も、一応ハガキで申し込んで下さい。  
※パーティー会場でストロボとフラッシュの使用は可。大いに撮りまくって下さい。

# 日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後2:00→6:00 ※8月のみは海外旅行のため月例会を中止	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。電話(828)2111。国電「上野駅」の「公園口」下車、改札口の真向かいスグ。会館正面に向かって左側の入口から入り、奥のエレベーターから4階へ行く。	¥ 300	テキストとして「生命の科学(文久書林刊)」を持参。2:00→3:00「生命の科学」講義、3:00→4:30主宰者挨拶・報告、テレパシー練習、休憩。4:30→6:00自己紹介、研究発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※7月のみは総会のため月例会を中止	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」電話(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=片 京0720-31-5646	200	テキストとして「生命の科学」(たま出版刊)「テレパシー」を持参。東京例会における久保田主宰者の講演テープを公開。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」 電話 0252-44-6766	200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の「生命の科学」講義録音テープを公開。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市桜町「熊本市市民会館」会議室。電話(55)5235。国鉄「熊本駅」前から市電「健軍」行き乗車、「お城前」下車、同交差点左折、徒歩2分。 連絡先=津野田俊行 0963-52-3381	200	テキストとして「生命の科学」と「テレパシー」(文久書林刊)を持参。久保田主宰の東京例会における「生命の科学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレパシー練習。
福知山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	福知山市「福知山市市民会館」2階会議室。駅前から右方向の道路を直進し、2つ目の信号機の所。電話0773-22-9551 連絡先=仲間秀樹 0773-22-4340(呼)301号、平日は18:00~22:00まで	100	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」、久保田主宰者の講演録音テープ公開、自己紹介、研究発表、座談会。
岐阜支部	毎月第3日曜日 午前9:00→12:00	岐阜市神田町「商工会議所」電話(64)2131。国鉄または名鉄「岐阜駅」下車、徒歩10分、バスか市電で「柳ヶ瀬」下車、近鉄百貨店を北へすぐ近く。 連絡先=松尾和也 0582-51-8567	300	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」を持参。久保田主宰者の講演録音テープ公開。支部長松尾氏による「生命の科学」解説。質疑応答、座談。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田主宰者の講義録音テープ公開、テレパシー練習、座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午前10:30→3:30	上山市「労働福祉会館」2階会議室。電話02367(2)6082。月岡公園入口より左側へすぐ。 連絡先=山口 緑 02367-9-2555	200	テキストとして「生命の科学(文久書林刊)」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の講演録音テープ公開、テレパシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第3日曜日 午前9:00→12:00	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。電話011-241-9171 連絡先=伊藤重信 011-251-4331	100	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレパシー練習、自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	静岡市民文化会館 連絡先=野口敏治 0542-86-7729	200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の講演録音テープ公開。テレパシー練習、研究発表。
旭川支部	設立準備中	詳細は〒071-13旭川市末広6条4丁目、石川公一宛連絡のこと。自宅0166-51-5699 職場0166-23-3165		
松山支部	設立準備中	詳細は 〒790愛媛県松山市中村3丁目6の6、藤原美由紀宛ご連絡を。		

★本誌バックナンバー(旧号)★

米GAP本部公認の唯一の日本支部たる日本GAPがアダムスキー問題に関して正確詳細なインフォメーションを伝える本誌は貴重な資料として後世に残るものです。

**No.65** 主要記事「UFO問題の真相(1) G.アダムスキー／「バミュウダ海域の謎」F.ステックリング／「超能力開発法(1) 亀田一弘／「幻影と巨石の国へ(1) 久保田八郎／その他。

**No.66** 主要記事「アダムスキー哲学の偉大さについて」ステイブ・ホワイティング／「ジョージ・アダムスキーの思い出」フリットクロフト夫妻／「幻影と巨石の国へ(2)」久保田八郎／その他。

No.65 ¥300円200 / No.66 ¥500円200

—日本GAP—

振替・東京4-35912  
(久保田八郎個人名義)

①「生命の科学」解説講義と(1時間半)  
②「質疑応答」の録音テープ(1時間半)

今年度東京月例会における久保田先生の毎月の「生命の科学」各課の解説講義録音テープ。①は真意を理解し、思想の統一を図る上で貴重な資料となるものです。先生の雄大な弁舌は聴く人の心をふるい立たせます。「近況報告」(30分)付き。テープ②は月例会での質疑応答の録音で、先生の明快な回答や珍しい話を聞くことができます。

テープ① ¥1000 円140  
テープ② ¥1000 円140

2本注文の場合も送料は140円です。

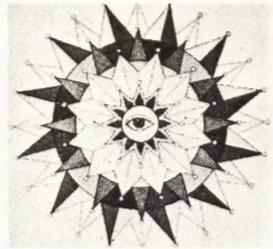
※これらのテープに限り、第×課と記して必ず下記へご注文下さい。(本年1月より毎月1課ずつ録音)

〒274 千葉県船橋市前原西8-5-18

〈東京月例会司会者〉 浜村 建郎 Tel. 0474-65-1844



①



②

①オーソン肖像写真  
②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

① ¥500円100 ② ¥200円50 一括注文の場合 ¥100

編集後記



★編者は四月上旬より約一カ月病臥しましたために、あらゆる計画が大幅に狂い、仕事のリズムもかなり変化して、かつての馬車ウマは鈍牛も化したこの頃ですが、信念の火は絶えることなく、マイペースで着実に前進を続けていますからご安心下さい。

★今春米の募金運動に対して多数の方から絶大なご支援をいただき、衷心より御礼を申し上げます。本号で中間報告をいたす予定でしたが、募金状況が予想を下回っていますので御援助のほどをお願い申し上げます。

★本号は体験談特集の内容と合致し、読みごたえのある記事を収録しました。不思議な体験や猟奇趣味に墮することはなく、心の高次元化に付随する現象として取り上げるのでありますから、そのつもりでお読み下されば幸いです。つきつめればこの世に不思議な事は何も存在しないと言えるでしょう。

★本号で昨年の総会時におけるホワイティング氏の質疑応答を掲載する予定でしたが、アベースの都合で次号まわしになりました。アメリカ中米宇宙考古学の旅に関する詳細なレポートを多数の写真入りで掲載します。特にピスタとテザートセンター関係の記事に重点をおくつもりですからご期待下さい。

★その旅行もいよいよ近づいてきました。総勢六十五名という人数は日本人の欧米旅行団としては稀有の大部隊です。さぞかし賑かなすばらしい旅が実現することでしょう。旅行参加申込者のための第二次説明会を東京で七月二十九日、大阪で八月五日に開催しますから、時間厳守の上、ぜひご出席下さい。重要資料をお渡しし、成田空港での集合時刻その他の重要事項を伝達します。

★この旅行のため、八月の東京月例会は中止しますからお間違いないようにお願いします。

★別掲予告のとおり、七月十五日に大阪支部総会が開催されますので、ふるって多数ご参加下さい。スライド「エジプト宇宙考古学の旅」の映写はこれをもって最後としますのでお見のがしなく。

★事情により高知支部は今年四月をもって解散しました。多年支部のためにご尽力頂いた橋詰利光氏に深く御礼を申し上げます。一方、愛媛県松山市では藤原美由紀さんを中心に松山支部設立の機運が高まっています。地元有志の方(特に男性)のご支援を望んでおられますので、よろしくお願いたします。

★本年十一月二十三日の日本GAP総会は万端の準備に専念しており、盛大な大会が予想されますが、ベルギーより招待するフリットクロフト夫妻の往復旅費、日本滞在の費用一切は当方の負担となります。これは総会当日の入場料でまかなうほか方法がなく、四百名の入場により赤字解消となりますので、多数のご出席を今からお願いたします。

★住所を変更された会員は①旧住所②新住所③氏名④会員番号を並記してご一報下さい。会員番号不明の方は旧住所と新住所をご明記下さい。新住所だけの通知ではぼう大な会員名簿や発送カード中から探しようがなく、お手上げです。

★日本GAP本部へご送金の場合は事情により現金書留にされないで必ず郵便振替でお願いします。

★なお編者は日本GAP「代表」ではなく、主宰者にすぎませんので、ご了解下さい。代表というのには多数の人から選ばれた人の肩書ですが、編者は「選ばれた」のではなくて最初から単独で自発的に活動を開始した者でありますから、代表と称するのはおかしいことに気付いたので。

★社団法人化の件も弁護士に相談して画策中です。関係官庁の意見では実現が困難視されますものの、できる限り頑張ります。(K)

GAP ニューズレター 67号  
編集発行人 久保田八郎  
発行所 日本GAP  
〒133 東京都江戸川区本一色町365-1 818  
電話(651)09558  
振替東京4-35912久保田八郎名義  
Jun 30 1979 頒価500円・送料200円

